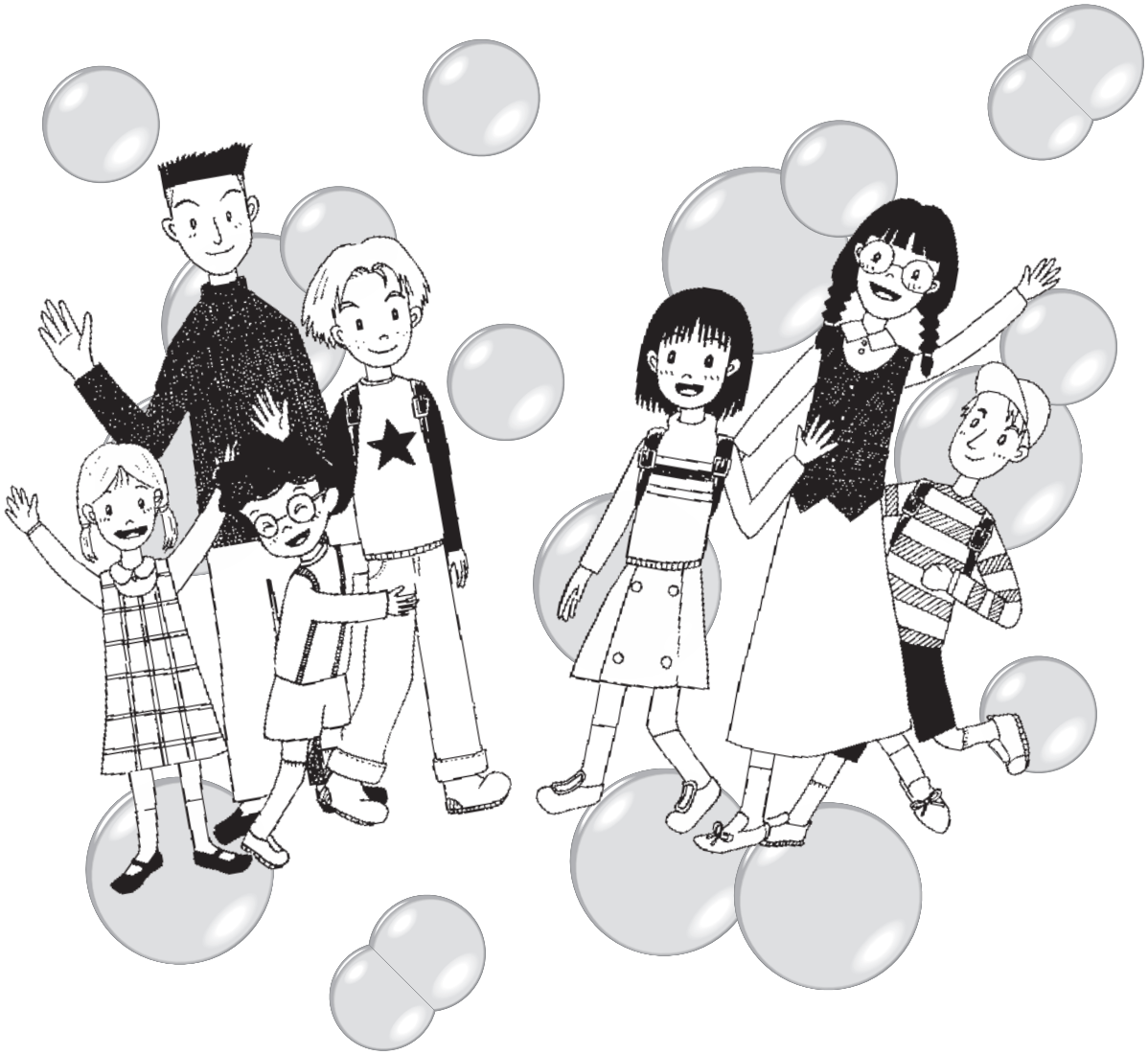
新版　いっしょに　まなぼう

みえこさんの にほんご

指導のアクセス



（公財）三重県国際交流財団

新版　いっしょに　まなぼう

みえこさんの にほんご

指導のアクセス

（公財）三重県国際交流財団

『みえこ』を使って日本語を教える先生方へ

― まえがきに代えて ―

これから日本語指導を始めようとしている先生方，あるいは新しい子どもの日本語指導に当たろうとしている先生方，今，どんな気持ちでしょうか。「うまく教えられるんだろうか？」「うまく伝わらなかったらどうしよう」……。そんな不安や心配を感じていませんか。「日本語が話せるんだから日本語指導ぐらいなんとかなるだろう」。そんな気持ちをもっていた先生方，でもいざ教室に向かうとなるとお困りではありませんか。

本書は，日本語テキスト『みえこ』（『新版 いっしょに まなぼう みえこさんの にほんご』）のための指導参考書です。先生方が『みえこ』を使って日本語指導を行う際に，基礎的な知識・情報や，授業を工夫する手がかりを提供することを目指して執筆しました。決してこれで十分とは言えませんが，授業前にはぜひテキストと本書の２冊を並べて，目を通しておいてください。初めて日本語指導にあたる先生でも，限られた時間内に最低限の基本事項が押さえられるように解説を試みました。

日本語指導への心配や悩みがあるのは，決してみなさんだけではありません。日本人だから，日本語が話せるからといって，日本語が教えられるものではありません。私たち日本語教師も日々迷い，悩みながら，次の授業に向けて本や参考書を調べ，試行錯誤をくり返しています。

でも，みなさんには「みえこさん」がついています。子どもたちに手渡される新しいテキスト『みえこ』。主人公のみえこさんとその仲間たちは，子どもにとっては大切な友だちに，先生方にとっては強力な助っ人になってくれるはずです。みえこさんたちがクラスで生き生きと活躍してくれるなら，きっと日本語学習も楽しい時間になることと思います。ぜひみえこさんたちを活用して，楽しい指導・練習方法を考えてみてください。本書がその一助となれば，何よりの喜びです。

なお，本書を執筆するにあたり，多くの方々から貴重なご意見を伺い，参考にさせていただきました。特に，鈴木恵子先生（四日市市立笹川西小学校教諭・外国人児童生徒のための初期適応指導教室「いずみ」コーディネーター）には，大変お世話になりました。この場を借りて，厚く御礼申し上げます。

子どもたちの輝く笑顔と，楽しい日本語指導の時間を心より願っております。



2009年９月

著　　者

目　次

『みえこ』を使って日本語を教える先生方へ－まえがきに代えて－

第１部　テキストの概要と日本語指導の基礎知識

1．『みえこ』の概要 …… 2
◇テキスト名の略称 …… 2
◇『みえこ』の構成 …… 2
◇『みえこ』の各課の構成 …… 2
◇表記方法 …… 3
◇学習対象者と学習レベル …… 3
◇学習のペースとカリキュラム …… 4

2．知っておいてほしいこと …… 4
◇国語教育・日本語教育・英語教育 …… 4
◇「外国語としての日本語教育」と「第二言語としての日本語教育」 …… 4
◇話しことばの指導 …… 5
◇日本語授業のイメージ …… 5
◇日本語授業の基本的な流れと組み立て …… 5

3．基本的な日本語の文法用語 …… 6
◇ていねい体と普通体 …… 6
◇名詞 …… 7
◇い形容詞・な形容詞 …… 7
◇動詞 …… 7

4．学習文型の導入について …… 9
◇「ぶんけいと　いみ」と脚注 …… 9
◇「意味」と「形」と「使い方のルール」の導入 …… 9

5．教具の準備と活用 …… 10
◇紙人形 …… 10
◇実物 …… 10
◇絵カード …… 10
◇文字カード …… 11

6．いろいろな練習方法 …… 11
◇正確さのための練習 …… 11
◇なめらかさのための練習 …… 14

7．「ふろく」の使い方 …… 18
◇「ぶんけいといみ」の使い方 …… 18
◇「きほんのことば」の使い方 …… 18

こんなときどうする？ …… 19

第 2 部　各課の解説と指導のポイント

ステップ 1
1 か……22
2 か……23
3 か……25
4 か……26
5 か……28
6 か……30
7 か……32
8 か……34
9 か……36

ステップ 2
10か……38
11か……40
12か……42
13か……44
14か……45
15か……47
16か……49
17か……50
18か……52

ステップ 3
19か……54
20か……55
21か……57
22か……59
23か……61
24か……63
25か……65
26か……67
27か……69

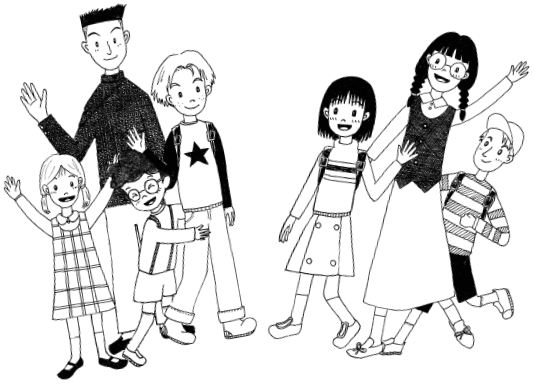
ステップ 4
28か……71
29か……73
30か……75
31か……76
32か……78
33か……80
34か……82
35か……83

付　　録

学習項目一覧……87
「基本の動詞　カード」の使い方……89
基本の動詞　カードリスト……90
基本の動詞　カード……91

― 第１部 ―

テキストの概要と
日本語指導の基礎知識



第１部には，テキスト『新版 いっしょに まなぼう みえこさんの にほんご』のおおまかな内容と，それを使って日本語指導をするときの進め方，そして，日本語指導に必要な基礎知識がまとめられています。

このテキストを初めて使う先生は，ぜひ一度は目を通しておいてください。

1.『みえこ』の概要



◇テキスト類の略称

本書では，既刊のテキスト類を各々，下記のように略称で呼んでいます。

『新版　いっしょに　まなぼう　みえこさんの　にほんご』　　→**『みえこ』**

『新版　いっしょに　まなぼう　続　みえこさんの　日本語』　　→**『続みえこ』**

『いっしょに　まなぼう　みえこさんの　にほんご　れんしゅうちょう１』
→**『れんしゅうちょう１』**

『新版　いっしょに　まなぼう　みえこさんの　にほんご　れんしゅうちょう２』
→**『れんしゅうちょう２』**

『新版　いっしょに　まなぼう　続　みえこさんの　日本語　指導のアクセス』
→**『続みえこアクセス』**

◇『みえこ』の構成

『みえこ』は，主に本課とふろくからなっています。主な学習内容は下記の通りです（文法用語については，本書pp.６～９に解説があります）。

「きょうしつの　ことば」（教室での指示のことばやよく使う名詞などの６か国語訳）

本　課
- ステップ１（１～９課）「～は～です」，数字，時間，値段，日にち，「～でした」
- ステップ２（10～18課）動詞「～ます/～ました」，家族，「あげます」，「もらいます」
- ステップ３（19～27課）い形容詞，な形容詞，「います/あります」，比較
- ステップ４（28～35課）「～がほしい」，「～たい」，動詞＜て形＞，「～ています」，「～てもいいですか」，「～てはいけません」

ふろく
- 「ぶんけいと　いみ」（学習文型の６か国語訳）
- 「きほんの　ことば」（基本動詞・形容詞のリスト　６か国語版）
- 「使用漢字一覧」

『みえこ』の学習項目の提示順序は，易しいものから難しいものへと配列され，ステップが上がるにしたがって難しくなっていきます。

子どもたちの日本語力に応じて，テキストの途中から学習し始めることはかまいませんが，できるだけ課の配列順序に沿って学習を進める方が望ましいでしょう。特に，ステップ間を飛び越えて課を行ったり来たりするような進め方は，しないように留意してください。

◇『みえこ』の各課の構成

各課に示された例文は，その課の主な学習文型になっています。

各課の１ページ目の脚注には，その学習文型のポルトガル語訳とスペイン語訳が示されています。

各課の本文は，基本的に，例文や学習文型を使った短い会話となっています。

必要に応じて「◇　～のことば」とういう形式で，ことばのまとめが提示されています。

それぞれの活用の仕方は，本書のP.９を参考にしてください。

◇表記方法

１）漢字の使用について

『みえこ』で使われている漢字は，基本的に，小学校学習指導要領・国語の学年別漢字配当表の第１学年配当漢字（計80字）の中にあるものです。それ以外は，ひらがな，またはカタカナで表記されています。

使用されたすべての漢字には，ふりがなが付けてあります。これは，このテキストが話しことばの学習を目的としており，漢字が読めないことによって口頭練習が中断されることなどのないように，という配慮からです。これらのふりがなは，すべて漢字の下に付けられています。もし，ふりがなを見ずに読んでみたいという希望がある場合，ふりがな部分を何かの紙で覆い隠して，これを下にずらしながら読み進めることができます。

なお，漢字学習については，市販教材にいろいろ工夫を重ねられたものがあります。巻末の参考文献を参考に，別途そちらを利用してください。

２）分かち書きについて

『みえこ』では，例１）のように，いわゆる国文法での「文節」をおおまかな単位として，１文字分ずつスペースを空けて表記しています（これを「分(わ)かち書き」と言います)。

例１）みえこさんは　がっこうへ　いきます。　（11課）

その理由は，ひらがなやカタカナが続くと，意味的な区切れ目がわかりにくく，読むのが難しくなるためです。子どもがノートに書くときなどには，このような分かち書きは必要ありませんので，そのように指導してください。

◇学習対象者と学習レベル

『みえこ』は，子どもが日本語を学ぶためのテキストです。主な学習対象者としては，おおよそ小学校中学年から高学年を想定していますが，その前後の子どもたちであっても，学習レベルさえ合っていれば問題はありません。

『みえこ』のテキストの学習を始める時期は，ひらがなとカタカナを一通り学習して，ひらがながだいたい読めるようになった頃です。ひらがなもカタカナもまだ正確に書けなくてもかまいませんが，もし，一つひとつのひらがなを見て読めないようであれば，『みえこ』を見ても読むことができません。その場合は，あせらずに『れんしゅうちょう１』に戻って復習してください。

なお，カタカナの習得には時間がかかります。『みえこ』では１課から，人の名前にカタカナが使われていますが（例：トム，ブルーノ），まだこの段階では五十音表と見比べながら読んでもかまいません。少しずつカタカナの復習を並行させながら，『みえこ』の学習を進めてください。

◇学習のペースとカリキュラム

『みえこ』は，１時間の授業（45分）で１課を終えるぐらいの学習ペースを標準としています。日本語を学び始めた子どもたちが日本の学校や社会に適応するためには，できるだけ早く日本語を習得することが必要とされています。そのため，このテキストの学習に時間をかけていたのでは，学ぶ意味が薄くなってしまいます。目安としては，復習日も含めて１週間に２～３課ぐらいのペースで，１学期間（３～４か月）で最後まで学べるように計画を立て，カリキュラムを組んでください。

2．知っておいてほしいこと



◇国語教育・日本語教育・英語教育

日本の小学校で学ぶ子どもたちは，基本的に，小学校へ入る段階ですでに，基本的な日本語の話しことばの能力を身につけており，日常生活のコミュニケーションを日本語（国語）で行っています。したがって，そこで行われる「国語教育」の目標としては，すでに身につけている日本語能力を元に，思考力や想像力及び言語感覚の養成や，国語を尊重する態度の育成など，高い内容が挙げられています。

これに対して，「日本語教育」は，まだ日本語による話しことばの能力を身につけていない子どもを対象として行われるものです。このような子どもは，基本的に家庭などでは，日本語以外の言語を使って，コミュニケーションを行っています。そして，このような子どもが日本語を学ぶとすれば，それは基本的に「外国語としての日本語」を学ぶことになります。つまり，日本語教育の大きな目的は，外国語としての日本語による，コミュニケーションの能力を身につけることと言えます。

このような「外国語としての日本語教育」は，むしろ日本の小学校または中学校で行われる「英語教育」に近いところがあります。

◇「外国語としての日本語教育」と「第二言語としての日本語教育」

じつは，「日本語教育」には，大きく２つの種類があります。「外国語としての日本語教育」と「第二言語としての日本語教育」です。

「外国語としての日本語教育」の大きな目的は，すでに上で述べたとおり，日本語を母語としない子どもを対象として，日本語によるコミュニケーションの能力を身につけさせることです。多くの場合，子どもたちはこれからどのぐらい日本にいて，どのくらい日本語を学び続ける必要があるのかはっきりしません。もしかしたら，１年も経たないうちに自分の母国へ帰国してしまう子もいるかもしれません。

一方，子どもたちの中には，日本に来てからずっと，何年も日本で生活し続けていく子もいます。このような子どもが学ぶ日本語は，たんなる「外国語」ではなく，自分が生まれたときに身につけた母語にも匹敵することば，つまり「第二言語」となります。そのような日本語教育を，

「第二言語としての日本語教育」と呼びます。理想的には，最終的な目標は日本語を母語とする子どもたちと同じレベルの日本語能力を身につけることになります。

ただし，子どもの多くは，自分の意志ではなく，親などの意志や都合によって日本に来て，日本語を学び始めます。「外国語としての日本語教育」と「第二言語としての日本語教育」の境目は必ずしもはっきりとしたものではありません。日本語を学び始める時点では，基本的にはまず「外国語としての日本語教育」から始めると考えてよいでしょう。

◇話しことばの指導

『みえこ』は，「話しことば」を学ぶためのテキストです。書きことばを学んだり，子どもに自習させたりするためのテキストではありません。日本語を使って，基本的なコミュニケーションができるようになることをめざしています。

授業では，先生と子どもたちで日本語をたくさん「話す」練習をしてください。「話す」といっても，目的のないおしゃべりをするのではありません。子どもの知らない日本語，知っていても不完全だったり，まちがっていたりする日本語の表現について，ルールを整理し，実際の場面で正しく使えるようにします。本書には，そのためにどのような指導や練習を行ったらいいのか，いくつかのヒントが示されています。

『みえこ』には付属の練習問題『れんしゅうちょう２』がありますが，これにいきなり書き込むのではなく，十分に話す練習をした後にしてください。**「書く」のは話せるようになってから**，ということに留意してください。

◇日本語授業のイメージ

日本人（日本語母語話者）が「日本語の指導」や「日本語の授業」と聞くと，つい「国語の授業」をイメージしてしまうかもしれません。でも，実際にはむしろ「英語の授業」を思い浮かべてもらったほうが近いでしょう。たとえば，英語を母語とする外国人の先生が，授業中に英語だけを話し，英語で英語を教えるような授業です。日本語指導の場合は，英語の代わりに，日本語で日本語を教えることになります。

◇日本語授業の基本的な流れと組み立て

日本語の授業には，次のような基本的な流れがあります。

【導入】：その日に学習することばや文型の意味，形，使い方をわかりやすく示す。
↓
【正確さのための練習】：導入文型を使って，正確に話せるようになるための練習。
↓
【なめらかさのための練習】：導入文型を使って，相手や場面，目的などに合わせて適切に話せるようになるための練習。

「正確さのための練習」は，必ず「なめらかさのための練習」の前に行います。さらに余裕があれば，総合的な《発展練習》を行います。これらの練習方法には基本的なパターンがあり，本書pp.11～17に詳しい説明があります。

また，授業の初めと終わりには，各々【授業の導入】と【授業のまとめ】を行います。

【授業の導入】：その日の学習に入るための準備段階。これまでの復習と，今日の学習で使う新しい語彙の意味などを確認しておく。

【授業のまとめ】：その日の学習の整理段階。みんなの前で発表したり，小テストをしたりして，学習項目が正しく習得できているかを確認し，次回へつなげる。

3．基本的な日本語の文法用語



日本語を教える先生は，基本的な日本語の文法について知っておく必要がありますが，子どもは文法の専門家になる必要はありません。ちがいがわかれば十分なので，『続みえこ』では，ことばのグループのちがいについて，⚐ や ♀ などの記号を使って示しています。授業では，これらの記号を大いに利用してください。各国語訳については，『続みえこ』p.ⅴの「ことばの グループ」を参照してください。

◇ていねい体と普通体

日本語を使って話すとき，クラスでの発表場面や，先生など目上の人，初対面の人との会話では，次の例１)のように，ていねいな話し方をします。他方，同じ内容を伝える場合でも，友だちや家族との会話では，例２）のようなくだけた話し方をします。例１）のような，ていねいな言い方を「ていねい体」と呼びます。他方，例２） のような，くだけた言い方を「普通体」と呼んでいます。

例１）図書室はどこにありますか。（ていねい体）
例２）図書室はどこにある？（普通体）

日本の社会や文化では，子どもといえども，ていねい体と普通体の両方を時と場合に応じて使い分けることが期待されています。使う状況を誤ると，相手に悪い印象を与えたり，逆に自分の能力を低く評価されたりすることもあるので注意が必要です。

そのために，日本語を教えるときには，順序として例１）のようなていねい体から導入します。日本人（日本語母語話者）には，一見，普通体の方が簡単なように思えるでしょう。でも実は，ていねい体の方が活用形は単純で，学習も容易です。さらに，ていねい体は，目上の人や初対面の人に対して使っても，相手に失礼な感じを与えません。学校でも，クラスでの発表など公の場では，ていねい体を使います。これらの理由から，一般にていねい体から教えています。

なお,『みえこ』と『続みえこ』では, 基本的にていねい体の定着をはかることを目的としており, 練習問題でもていねい体を基本としています。普通体は『続みえこ』47課でまとめて学びます。

◇名詞

名詞は，小学校では「ものの名前」と指導されており，『みえこ』でも同じ表現で示しています。

名詞は単独で使うだけでなく，たとえば「わたしの本です」「昨日は雨じゃありませんでした」のように，文の形としても使います。その場合には語尾が変化し，その変化した形が後述の「な形容詞」と似ています。『みえこ』の後半では，これらを区別するため，［名詞＋です／だ］の文型には (め) をつけて示しています。

◇い形容詞・な形容詞

形容詞は，小学校では「様子を表すことば」と指導されており，『みえこ』では，より易しい表現で「ようすの ことば」と示しています。さらに『みえこ』では，形容詞を「い形容詞」と「な形容詞」のグループに分けています。

い形容詞 (い)

うしろに名詞が来るときに「-い＋名詞」という形になることばです。
例）「大きい本」「やさしい子」
国文法では，単に「形容詞」と呼ばれるものです。

な形容詞 (な)

うしろに名詞が来るときに「-な＋名詞」という形になることばです。
例）「べんりな本」「元気な子」
国文法では，「形容動詞」と呼ばれるものです。
なお，「きらい」と「きれい」は，な形容詞です。い形容詞と紛らわしいので，特に注意してください（「きほんの ことば」では＊で示されています）。

「きほんの ことば」の「形容詞」ページ（『みえこ』付録pp.126～137）も参照してください。

◇動詞

1）動詞の「ます形（けい）」

動詞は，小学校では「動きを表すことば」と指導されています。『みえこ』では，より易しい表現で「うごきの ことば」と示しています。

日本語で動詞を導入するときは，次の例１）のように，かならず「～ます」の形から導入します。これを動詞の「～ます」の形，あるいは「ます形（けい）」と呼びます。

例１）私は７時に起きます。
例２）私は７時に起きる。

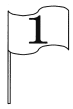
ちなみに，例２）の「起きる」のような形（辞書形）は，『続みえこ』36課で学びます。

2）動詞のグループ分け

日本語の動詞は，活用させたときの形の違いから，いくつかの種類に分けることができます。日本語教育では，３つの種類に分けるのが基本です。『みえこ』では，「グループ１」「グループ２」「グループ３」に分けています。

動詞のグループ分けは，動詞の活用形を学ぶときに必要になります。『みえこ』では，16課の学習の後に，まとめて導入します。今後，グループのちがいを正しく区別できるようになるまで，くり返し授業で注意をうながし，「きほんの ことば」の「動詞」ページ（『続みえこ』付録pp. 136〜147）などを利用して復習してください。

グループ１　子どもには，**「-ます」の前が「-ⓘ」の音になることば**，と教えます。



例）「書きます kakⓘmasu」「読みます yomⓘmasu」「遊びます asobⓘmasu」
国文法では「五段活用動詞」と呼ばれるものです。

グループ２　子どもには，**「-ます」の前が「-ⓔ」の音になることば**，と教えます。



グループ２には，「-ます」の前が「-ⓘ」になる動詞もいくつか含まれます（「きほんの ことば」では#で示された語）。しかし，数が少ないので，例外として個別に教えてください。

例）「寝ます nⓔmasu」「食べます tabⓔmasu」
「# 見ます mⓘmasu」「# 着ます kⓘmasu」
国文法では，各々「下一段活用動詞」「上一段活用動詞」と呼ばれるものです。

グループ３　子どもには，**「します」と「来ます」だけ**，と教えます。



ただし，「します」は「勉強します」「掃除します」，「来ます」は「持ってきます」「つれて来ます」などの形も含みます。
国文法ではそれぞれ「サ行変格活用動詞」「カ行変格活用動詞」と呼ばれるものです。

なお，動詞の活用形を導入したり，それを練習したりするときは，次の順序で行います。

「グループ２」→「グループ１」→「グループ３」

その理由は，「グループ２」の方が「グループ１」より形が単純で，各活用形の作り方のルールも簡単だからです（※同じ理由で，「グループ２」→「グループ３」→「グループ１」の順序をすすめる教授法もありますが，『みえこ』では基本的に前者の方針を取っています）。

３）動詞の活用形

活用形の名称は，「ます形（けい）」や「て形（けい）」など，いわゆる国文法での呼び方とは異なるものがあります。これらは，日本語を学ぶ人にとってのなじみやすさから，決められたものです。

表１は，『みえこ』と『続みえこ』で学ぶ主な動詞の活用形の一覧です。

表１『みえこ』と『続みえこ』で学ぶ主な動詞の活用形

活用形（国文法での呼び方）	学習課	グループ１	グループ２		グループ３	
ます形（連用形）	10 課	書きます	食べます	見ます	します	きます
て形（連用形＋て）	31 課	書いて	食べて	見て	して	きて
辞書形（終止形）	36 課	書く	食べる	見る	する	くる
ない形（未然形）	39 課	書かない	食べない	見ない	しない	こない
て形（連用形＋て）	31 課*	書いて	食べて	見て	して	きて
た形（連用形＋た）	44 課	書いた	食べた	見た	した	きた
意向形	53 課	書こう	食べよう	見よう	しよう	こよう
命令形	55 課	書け	食べろ	見ろ	しろ	こい
禁止形	55 課	書くな	食べるな	見るな	するな	くるな
ば形（仮定形）	61 課	書けば	食べれば	見れば	すれば	くれば
受身形	63 課	書かれる	食べられる	見られる	される	こられる
可能形	64 課	書ける	食べられる	見られる	できる	こられる

4．学習文型の導入について



各学習文型の具体的な導入方法については，本書第二部の各課「指導のヒント」に説明があります。ここでは，共通する事柄について説明しておきます。

◇「ぶんけいと いみ」と脚注

『みえこ』では，基本的に各課に１つの新出学習文型が割り当てられています。これは，各課のタイトルとして示されています（例「３か あなたは みえこさんですか」）。

『みえこ』付録の「ぶんけいと いみ」（pp.122～125）には，この学習文型を６か国語へ翻訳したものを掲載しました。特にポルトガル語訳とスペイン語訳については，『みえこ』各課の最初のページの脚注にも，同じ翻訳文が掲載してあります。

もし，クラスにこれら６か国語のいずれかを母語とする子どもがいて，それが読める場合には，**学習文型を導入する際に，ぜひこの翻訳文を各自に読ませてください。**文型の意味を知ってから学習を始めると，格段に理解が進み，導入も楽になるからです。

◇「意味」と「形」と「使い方のルール」の導入

日本語を母語としている人にとっては非常に簡単なことばや文型も，初めて日本語を学ぶ子ど

もにとっては，未知の音の連なりとして伝わります。

日本語を話せるようになるためには，少なくとも「意味」と「形（文型）」と「使い方のルール」の３つを学ぶ必要があります。「意味」だけ，あるいは「形（文型）」だけを知っても（教えても），日本語を話せるようにはなりません。

本書第二部の各課「指導のヒント」には，新しい学習文型を導入する方法の一例が示されています。同じ文型でも，教具を変えることで，ずいぶん違った印象になります（「４．教具の準備と活用」参照）。ぜひ，子どもの興味・関心や，理解度などに合わせて，いろいろ工夫してみてください。

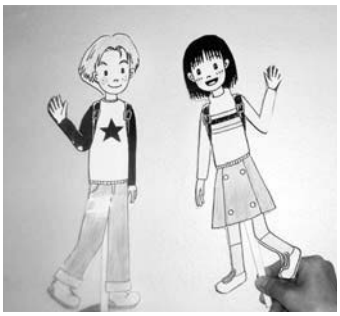
５．教具の準備と活用



授業では，口頭で説明するだけでなく，ジェスチャーを使ったり，教具を使ったりなどして，視覚的にも訴えると，わかりやすく導入・練習することができます。ここでは，主な教具として，紙人形，実物，絵カード，文字カードを紹介しておきます。

◇紙人形

紙人形は，『みえこ』に出てくる子どもの絵をそれぞれ準備し，割り箸を付けると簡単に作れます。初めに一度作っておけば，その後の学習でくり返し使うことができて便利です。



◇実物

ものの名前などを導入する際，実物が準備できれば，翻訳の必要もなく，非常にわかりやすくなります。例えば，「ほうき」のことを言葉で説明するよりも，実物を見せた方が，よほど理解は早いでしょう。実物のことを「レアリア」と呼ぶこともあります。導入には１つあればすみますが，もし複数用意できれば，グループに分かれて買い物ゲームなどをすることもできます。

◇絵カード

絵カードは，実物が準備できないときに，非常に便利な教具です。

後述の「６．いろいろな練習方法」では，口頭ドリルを紹介します。その口頭ドリルの手がかり（キュー）として絵カードを使うと，子どもたちにも分かりやすく，ドリルも進めやすくなります。子どもが絵カードに慣れてくれば，先生がことば（キュー）を話さなくても，絵カードを見せるだけで，口頭ドリルができるようになります。また，「カルタ取り」のようなゲームにも使用できます。

動詞については，本書の巻末に付録として「基本の動詞　カード」があります。これは，拡大

コピーして切り離し，カード型にして使います。点線部分を切り離さずに山折りにすると，表面が絵，裏面が文字のカードになります。

なお，本書にあるカードは，動詞のみです。この動詞は，『みえこ』の「◇うごきの　ことば　①②」（p.57，62）に加えて，繰り返し練習が必要な基本動詞（合計36個）を選んでいます。い形容詞とな形容詞については，『みえこ』の「ようすの　ことば　①②」（p.80，86）が一覧になっていますので，その絵を使って同じような絵カードを作り，練習に活用してください。

また，『みえこさんの にほんご』シリーズには，絵カード集もあり，ホームページからダウンロードできるようになっています。
そちらもぜひご活用ください。もちろん，必要な絵を自分で描くことができれば，それも効果的な教材となるでしょう。いずれの場合も，カードの大きさをそろえて作っておき，裏に文字も書いておけば，その後の保管や検索に便利です。

その他にも，市販の絵教材も多数あります。これについては，参考文献を参照してください。

◇文字カード

初級の初めの段階では，文字を読むこと自体時間がかかるので，文字カードはむしろ絵カードの補助として使います。本書付録の「基本の動詞カード」の文字面も，口頭ドリルには絵の面を使い，カルタなどの発展練習などで文字面を使うといいでしょう。

上記の他にも，写真，雑誌・広告などからの切り抜き，使用済みのチケットや切符，メニュー，なども，立派な教具・教材となります。急に探すのは大変なので，日頃から学習文型をイメージしながら，使えそうなものを探しておくといいでしょう。

6．いろいろな練習方法



各課で学習する文型や活用形を導入した後で，それを正しく定着させるために，「正確さのための練習」をします。それから，学習した文型を使って実際にコミュニケーションができるようになることを目標に，「なめらかさのための練習」を行います。

◇正確さのための練習

文型や活用形を正確に練習する際に，口頭によるドリルはたいへん有意義な方法であり，基本的なものとしては，以下のような７つがあります。クラスでは，まずは，このような口頭によるドリルを十分行って，活用形や文型を正しく言えるように練習してください。『れんしゅうちょう２』の練習問題に書き込むのは，すらすら言えるようになってからにしてください。

なお，このようなドリルは，文型や活用形を習得するのに欠かせない大切な練習ですが，反面，機械的な練習になりがちです。絵カードや紙人形などの教具を利用したり，いろいろなドリルを組み合わせたりして，子どもが飽きないように，工夫する必要があります。本書の付録「基本の

動詞　カード」も大いに活用してください。

また，ドリルに使うことばや場面は慎重に選ぶことが重要です。うっかり不適切な表現の練習をすることのないように十分注意してください（例「死んでください」31課）

1）繰り返しドリル

先生が言ったとおりに，子どもが繰り返して言う練習で，いちばん基本的なドリルです。新しい語彙や文型などを導入する際に有効です（以下，Tは先生，Sは子どもを示す)。

例)『みえこ』４課（TとSが実際にいすや鉛筆を指さしながら）

T$_1$：これはいすです。　→　S$_1$：これはいすです。

T$_2$：これはえんぴつです。　→　S$_2$：これはえんぴつです。

2）代入ドリル

まず，先生が基本文型の例文を提示してから，キュー（入れ替えるための語句)を与え，子どもがそのキューを代入して，文を作るドリルです（以下，キューを〈　〉で示す)。キューの提示は，口頭（音声）で与えるのが一般的です。加えて，絵カード，写真カード，文字カード，実物などを見せながら行うと，子どもにわかりやすく，ドリルに変化を持たせることができます。

動詞や形容詞のキューは，テキストや『れんしゅうちょう２』に載っているものだけでは不十分です。『みえこ』pp.126～137 の「きほんのことば」なども利用して，練習してください。

例)『みえこ』４課

T$_1$：これはいすです。　→　S$_1$：これはいすです。(繰り返し)

T$_2$：〈えんぴつ〉　→　S$_2$：これはえんぴつです。

T$_3$：〈ノート〉　→　S$_3$：これはノートです。

3）変換ドリル

一定の規則に基づいて，キューを変換するドリルです。さまざまな活用形の練習や，文末の形を変換して疑問文や否定文などを作ったりする練習に使われます。

例)『みえこ』16課

T$_1$：〈給食を食べます〉給食を食べました。　→　S$_1$：給食を食べました。(繰り返し)

T$_2$：〈牛乳を飲みます〉　→　S$_2$：牛乳を飲みました。

T$_3$：〈宿題をします〉　→　S$_3$：宿題をしました。

4）付加ドリル

繰り返しドリルを行うのが難しい，長い文の練習に使われるドリルです。文末から文頭へと，キューをつけ加えながら練習します。

例)『みえこ』17課

T$_1$：〈あげます〉　→　S$_1$：あげます。

T$_2$：〈プリントを〉　→　S$_2$：プリントをあげます。

T$_3$：〈ブルーノさんに〉　→　S$_3$：ブルーノさんにプリントをあげます。

T$_4$：〈みえこさんは〉　→　S$_4$：みえこさんはブルーノさんにプリントをあげます。

5）結合ドリル

２つの文を１つの文に結合するドリルです。文の前件と後件の関係が理解できるように，同時に２枚の絵カードを提示するなど工夫します。『みえこ』ではまだ長い文型は学習しないので，このドリルを使う機会は少なく，むしろ『続みえこ』に入ってからよく使うことになるでしょう。

例）『続みえこ』37課の練習（『続みえこ』p.10を見ながら）

T_1：〈春になります〉。〈桜が咲きます〉。春になると，桜が咲きます。

S_1：春になると，桜が咲きます。（繰り返し）

T_2：〈夏になります〉。〈プールで泳ぐことができます〉。

S_1：夏になると，プールで泳ぐことができます。

6）完成ドリル

先生が文の前半か後半のみを与えて，子どもが文を完成させるドリルです。

例）『みえこ』25課

T_1：〈みえこさんは今日宿題を〉みえこさんは今日宿題をします。

S_1：みえこさんは今日宿題をします。（繰り返し）

T_2：〈トムさんは昨日宿題を〉

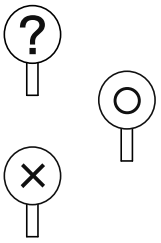
S_1：トムさんは昨日宿題をしました。

7）質問応答ドリル

先生の質問に対して，子どもが答えるドリルです。たとえば，「はい」「いいえ」など，答え方は先生が決め，子どもはその指示に従って答えます。

例１）『みえこ』10課

T_1：みえこさんは今日勉強します。（『？カード』を見せる）
　　みえこさんは今日勉強しますか。（『○カード』を見せる）



S_1：はい，勉強します。

T_2：みえこさんは日曜日勉強しますか。（『×カード』を見せる）

S_2：いいえ，勉強しません。

このほかに，絵などを見ながら先生が質問し，子どもが，その絵に沿って答えるようなドリルもできます。

例）『みえこ』25課（『みえこ』p.94の絵を見ながら）

T_1：　本はどこにありますか。

S_1：いすの上にあります。

T_2：ノートはどこにありますか。

S_1：机の上にあります。

なお，先生が一人ひとりに質問し，子どもが自分自身について答えるような質問応答は，次に取り上げる「なめらかさのための練習」になります。

8）応用

以上のようなドリルのほかに，いろいろなゲームを通して，語彙や文型の定着をはかることができます。たとえば，以下のような，「カルタ取り」や「ビンゴゲーム」，「伝言ゲーム」などが

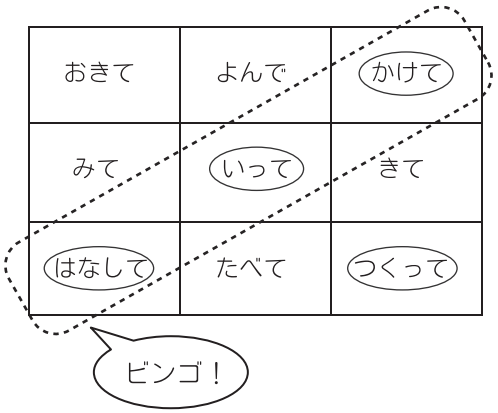
あります。ゲームには，たいてい勝ち負けの要素が含まれているので，学習意欲を高めるのに効果的です。

例1）**動詞の「カルタ取り」**

カルタの表に動詞の＜ます形＞，裏に「～ました」の形を書いておきます。表を上にしてカルタを並べ，先生がその中の一枚を読み上げます。子どもはそれを見つけ，「～ました」の形で言うことができたら，カルタがもらえます。最後にたくさんカルタを集めることができた人が勝ちです。「～ません」の形や〈て形〉などでもいいでしょう。

例2）**＜て形＞の「ビンゴゲーム」**

３×３マスの枠を書いた紙を一枚ずつ子どもに配り，先生が「書きます」「見ます」「来ます」などの動詞の＜ます形＞を九つ言います。子どもは，それらを聞きながらそれぞれ＜て形＞に変えて，好きなマスに書きます。全部書き終わったら，先生がもう一度動詞の＜て形＞を言い，子どもはその動詞の＜て形＞を『○』で囲みます。早くビンゴになった（『○』が縦か横か斜めに，それぞれ一列に並ぶ）子どもが勝ちとなります。



例3）**「伝言ゲーム」**

文を最後まで間違いなく伝える練習です。先生は，小さな紙１枚に１つの文を書いておきます（例「ろうかをはしってはいけません」）。子どもたちは同じ人数のグループに分かれて，それぞれ一列に並びます。先生は先頭の人に紙を１枚ずつ渡します。スタートの合図で，前から後ろに順に内緒話のように伝えて行きます。最後まで早く正しく伝えることができたグループが勝ちとなります。

◇なめらかさのための練習

「正確さのための練習」を通して文型がすらすら正確に言えるようになっても，それだけでは不十分です。学習した文型を使って，実際にいろいろな場面で会話ができるようになるために，以下のような「なめらかさのための練習」を行います。

ロールプレイやタスクなどは，発展練習として行うといいでしょう。学習意欲を高めるためにも効果的なので，いろいろ工夫してみてください。

１）自由応答練習

「正確さのための練習」の質問応答ドリルでは，先生の質問に対して，子どもは，先生が決めた通りに答えなければなりません。これに対して，「なめらかさのための練習」では，先生が一人ひとりに質問し，子どもは学習した文型を使って，自分自身のことについて自由に答えます。「いつ」「どこ」「だれ」などの疑問詞を使った質問も有効です。子ども同士で質問応答をしても

いいでしょう。

例1)『みえこ』29課

Ｔ：Ａさんは何が食べたいですか。

Ａ：わたしはポテトチップスが食べたいです。

このほかに，写真や実物などを見ながら，練習することもできます。

例2)『みえこ』28課（いろいろな色の色紙を見ながら）

Ｔ：Ａさんは，どれがいいですか。

Ａ：わたしは青いのがいいです。

2）ロールプレイ

学習した文型が使えそうな会話の場面，およびＡとＢの役割（ロール）を設定し，ロールカードに書いておきます。子どもにカードを渡して，それぞれの役割を与え，必要と思われる語彙を導入してから，会話練習をします。

例）[～がほしいです]と[～の]を使ったロールプレイ

（『みえこ』28課の発展練習）

① ＡとB の役割を書いたロールカードを用意します。二人一組にして，それぞれにカードを渡し，役割を与えます。

Ａのロールカード例

あなたは，時計店の人です。Ｂさんは時計を買います。どんな時計がいいですか。Ｂさんに聞きます。そして，時計を売ります。

Ｂのロールカード例

あなたは時計がほしいです。時計店に行きます。どんな時計がいいですか。店の人に話します。そして，時計を１つ買います。

② 店の商品として，『みえこ』p.35～36の時計の絵をコピーして，いくつか時計の絵カードを準備します。このとき，子どもが説明しやすいように，単純な形のものを選ぶとよいでしょう。また，拡大／縮小して，大きさに変化をつけておくといいでしょう。そのカードを見ながら，形容詞の復習をしたり，新しい語彙を導入したりします（例「大きい」「小さい」「まるい」「しかくい」「腕時計」「目覚まし時計」など)。

③ 以下のような会話練習をします。なお，店員の会話は『みえこ』６課も参考になります。

（会話例）

Ａ：いらっしゃいませ。

Ｂ：あのう，目覚まし時計がほしいです。

Ａ：いろいろありますよ。小さいのがいいですか。

Ｂ：いいえ，大きいのがいいです。

Ａ：丸いのがあります。四角いのもあります。

Ｂ：丸いのがいいです。

Ａ：これはどうですか。

Ｂ：いいですね。じゃ，それをください。

Ａ：はい，2000円です。

④　時間があれば，AとBのロールカードを交換して役割を交代し，同様の練習をします。

⑤　最後に，クラスのみんなの前で発表します。

3）タスク

ある目的を設定し，それを達成するために，二人一組やグループで行う作業をタスクといいます。学習した文型を使って，より現実的な会話練習を行うことができます。子どもの間に，情報の差をつけておくこと（Aは情報を知らないが，Bは情報を知っている）が，一つのポイントになります。

例１）[～はいくらですか]を使ったタスク（『みえこ』６課の発展練習）

①　『みえこ』p.29を２枚コピーして，AとBのタスクシートを作ります。例えば，Aのタスクシートでは，「消しゴム」「ランドセル」「ふでばこ」「はさみ」の値段を消しておきます。他方，Bのタスクシートでは，「鉛筆」「ノート」「靴」「物差し」の値段を消しておきます。こうすることで，お互いの情報に差が出ることになります。

Aのタスクシート　　Bのタスクシート





②　子どもを二人一組にして，それぞれに，AとBのタスクシートを配布します。

③　まず，全員に値段がわかっている「かさ」を例にして，先生と子どもで，値段を尋ねる会話例の練習をします。

（会話例）

Ｔ：すみません。かさは，いくらですか。

Ｓ：かさは，2000円です。

Ｔ：ありがとうございます。

④　次に，二人組の子ども同士でお互いに，値段がわからない品物について，相手に尋ねて値段を教えてもらい，その値段を記入していきます。例えば，次のような会話例になります。

（会話例）

Ａ：すみません。消しゴムは，いくらですか。

Ｂ：消しゴムは，100円です。
Ａ：ありがとうございます。（自分のタスクシートに「100えん」と記入）

⑤　お互いに全部書けたら，最後にクラス全体で，答えを確かめます。

例２）[～が好きです]を使ったタスク（『みえこ』24課の発展練習）

①　ワークシートを配布し，子ども同士で，お互いに下記のようなインタビューをして，情報を集めます。
Ｑ：＊＊さんはサッカーが好きですか。
Ａ$_1$：はい，好きです。
Ａ$_2$：いいえ，好きじゃありません。

②　質問しながら，答えが「はい」だったら『○』，「いいえ」だったら『×』を，ワークシートに書き入れていきます。㋓と㋔は，各自で考えた質問をします。

③　書き終わったら，一人ずつ，「＊＊さんはサッカーがすきです」のように，自分が集めた情報をクラスで発表します。

Ａさんのワークシート例

	Ｂさん	Ｃさん	Ｄさん	Ｅさん
㋐　サッカーがすきです	○			
㋑　トマトがすきです	×			
㋒　おんがくがすきです				
㋓				
㋔				

４）プロジェクト・ワーク

子どもが，自分たちで相談しながら行う総合的な学習活動です。子どもの関心に合わせて，いろいろなプロジェクト・ワークを授業に取り入れてみてください。なお，詳しいことは，（『プロジェクト・ワーク』日本語教育研究会資料シリーズ編集委員会編：1988）を参照してください。

例）『みえこ』19～25課の発展練習としてのプロジェクト・ワーク
グループで校内を探検して，地図を作り，各教室がどんなだったかをクラスで発表する。どこかの教室で，インタビューをしてくることを課題としてもよい。まず，どこを探検したいか，どんな係（絵を描く，インタビュー，発表など）をしたいかなどを話し合って決める。発表では，い形容詞，な形容詞，「います」「あります」などを使って表現する。

7．「ふろく」の使い方



◇「ぶんけいといみ」の使い方

『みえこ』のpp.122～125には，「ふろく」として「ぶんけいといみ」が掲載されています。すでに述べたように，これは各課の学習文型を６か国語へ翻訳したものです。特にポルトガル語訳とスペイン語訳については，各課の１ページ目の脚注にも示されています。もし，クラスにこれら６か国語のいずれかを母語とする子どもがいて，それが読める場合には，理解を促進させるためにも，学習文型を導入する前に，ぜひこの翻訳文を子どもに読んでもらってください。

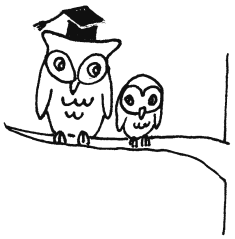
◇「きほんのことば」の使い方

「きほんのことば」は，『みえこ』のpp.126～137に「ふろく」として掲載しています。日常，子どもがよく使うと思われる基本的な動詞と形容詞を取り上げ，６か国語へ翻訳したものです。

動詞は，合計81語が五十音順に並べてあります。形容詞は58語で，基本的には五十音順になっていますが，「明るい」「暗い」などのように対になっているものは，続けて列記してあります。

『みえこ』には，各課の語彙の訳はありませんが，この「きほんのことば」を簡単な辞書として使うことができます。このページを，表に動詞，裏に形容詞の両面コピーにし，一人ずつに配布しておいて，いつも授業に持ってくるようにすると，使いやすいでしょう。

また，本書p.12の「６．いろいろな練習方法」にある「代入ドリル」や「変換ドリル」のキュー（先生が子どもに与える語句）としても利用できます。できれば，「きほんのことば」の語句を「文字カード」にしておくと，ドリルなどに便利です。



こんなときどうする？

Q：「友だちとの会話ではこんな話し方はしない」と言われるのですが。

A：友だちが話していることばと，今自分が勉強していることばの違いに気づいたことは，子どもの１つの大きな成長と見ていいでしょう。ただ，本書p.6「３．基本的な日本語の文法用語　◇ていねい体と普通体」で述べた通り，日本の社会や文化では，子どもといえども，丁寧体と普通体の両方を時と場合に応じて使い分けることが期待されています。ぜひ，子どもには両者のちがいに気づいたことをほめてあげて，ていねい体と普通体，どちらも学ぶ必要があることを指導してください。普通体は『続みえこ』47課でまとめて学びますので，それを予告して学習を励ますといいでしょう。

Q：話すのは上手なのに，書きたがりません。

A：話すのが上手ということはすばらしいことですね。まず，それをしっかり受け止め，ほめてあげてください。逆に，書くのが苦手ということは，本人も自覚しているはずです。書く力は，急にはつきません。話しことばと書きことばは，必ずしも同じものではないからです。日本人の子どもでも，小学校に入ってから国語や書写の時間にずいぶん時間をかけて，何度も書く練習をくり返しています。ここは焦らず，『れんしゅうちょう２』などを利用して，少しずつ階段を上がるように練習を進めてください。色鉛筆や筆ペンなど，筆記具を変えてみるのも一案です。そして，上手に書けるようになったところは，また十分にほめてあげてください。

Q：マンツーマンで指導すると，先生の言うことをあまり聞かないのですが。

A：マンツーマンで個人指導する場合には，子どもの日本語のレベル差や母語のちがい，子どもの人数など，いろいろな事情があります。ただ，子どもが集中して活動に取り組める時間には限りがあり，１つの学習活動にはせいぜい15分ぐらいです。それを１対１で長時間向き合い続けるのは，かなり大変なことです。もしかしたら，飽きてきて，甘えた気持ちが生じているのかもしれません。テンポよく進め，話す・聞く・書く・読む

など，いろいろな活動を時間内に取り入れると効果的でしょう。もし可能ならば，子ども同士がペアかグループになって行う教室活動（ゲームなど）をぜひ取り入れてみてください。

Q：日本語の授業にあまり興味を示さないのですが。

A：比較的単純な対策は，子どもの興味や関心を探って，教材や指導方法を工夫することでしょう。でも，このような問題の背景には，いくつかの理由が考えられます。もしかしたら，今学んでいる日本語のレベルが自分には簡単すぎると思っているかもしれませんし，逆に難しすぎて理解できていないかもしれません。これらの場合，子どもの気持ちを聞き，同時に習熟度の確認テストなどを行って，より適当なレベルへ変更する必要があります。また，多くの子どもは，日本語の学習を自分の意志で始めるわけではありません。日本語を学ぶ意義を自覚していない場合や，なぜ自分が日本語を勉強しなければならないのかという必要性を納得していない場合もあります。このような場合には，きっかけや時間が必要となります。その手がかりの一例として，クラスに日本人の子どもに来てもらい，日本語でコミュニケーションをしなければならない機会や状況を作ってみるといいでしょう。

Q：子どもは自分でどんどん新しい日本語を覚えていきます。日本語指導は必要ないのでは？

A：子どもたちはきっかけをつかむと，驚くほどの早さで日本語を身につけていきます。確かに，あえて日本語の勉強はいらないのではと思われることもあるでしょう。でも，日本育ちの子どもたちとの大きな違いが一つあります。それは，これまで浴びてきた日本語のシャワーの量です。短期間に耳から入ることばには，どうしても限界があります。また，周囲の人々との会話だけでは，耳にする機会のないことばや表現もたくさんあります。だからこそ，クラスの中で先生や仲間たちと日本語を学ぶことに意義があるのです。クラスでは，ジグソーパズルのピースをつなげていくように，あるいはその穴を埋めていくように，日本語力を拡げていくことを目指してみてください。子どもに力があれば，各教科で扱う新しいことばを少しずつ練習に取り入れてみてもいいでしょう。

— 第２部 —

各課の解説と指導のヒント

第２部には，『みえこ』の各課について，「ねらい」「ポイント解説」「指導のヒント」「『れんしゅうちょう』の解説」が挙げられています。

ねらい

各課の文法に焦点を当てた「ねらい」の例が示されています。これは例ですので，授業ごとに，ことばや使い方の習得などふさわしい「ねらい」を定めてください。

ポイント解説

日本語指導の際に，最低限知っておいてほしい内容がまとめられています。そのままクラスで説明するのではなく，まずは先生の知識の引き出しに入れてください。

指導のヒント

上記の「文法のポイント解説」で解説された文型や活用形ごとに，導入の方法や，テキストの練習問題の扱い方が示されています。ここでの解説は，指導の流れの順序に沿っていますので，この順序に従って指導していけば，基本的な授業の組み立てができあがることになります。もちろん「ヒント」ですので，ぜひ，それぞれの先生で工夫を重ねてください。

なお，ここでは口頭ドリル（正確さのための練習）は当然行うべきものとして，詳しい解説が省略されています。本書pp.11～14を参考に工夫しながら，必ず行うようにしてください。

『れんしゅうちょう』の解説

『みえこ』の付属問題集『れんしゅうちょう２』の問題に関する解説です。問題の意図や，注意事項などが示されています。『れんしゅうちょう２』を授業で使う前に，各問題がどの学習項目と対応しているのか，確認しておくといいでしょう。



1か

ねらい 

1．さまざまな場面に応じて，きちんとあいさつをすることができる。



ポイント解説

（1）あいさつ

ほかの人とコミュニケーションをとる上で，あいさつは基本となるものであり，良い人間関係を築くために重要な役割を果たします。

また，あいさつは日本語学習における大切な第一歩でもあります。状況や相手に応じて，あいさつが使い分けられるように練習しましょう。この課では，あいさつのほかに，感謝したり謝ったりするときの表現なども学習します。



指導のヒント

（1）あいさつ

【ことばの導入】『みえこ』１課の絵などを使って状況を示してから，それぞれの場面に応じた言い方を導入します。その際，ことばだけではなく，会釈やおじぎなどの動作を添えるように気をつけてください。（『みえこ』p.９の「上の絵」の絵カードを見せる。以下，Ｔは先生，Ｓは子どもを示す）

Ｔ：（おじぎをしながら）おはようございます。

Ｓ：（おじぎをしながら）おはようございます。

（みえことトムの紙人形を準備。『みえこ』p.９の「下の絵」の絵カードを見せる。紙人形と絵カードの作り方は本書pp.10～11を参照）

みえこ：おはよう。

ト　ム：おはよう。

【練習】先生や目上の人に対しては「おはようございます」「ありがとうございます」，友だちに対しては「おはよう」「ありがとう」など，相手によって使い分ける必要があります。先生と子ども，あるいは子ども同士で，楽しみながら練習するといいでしょう。



『れんしゅうちょう』の解説

１）では答えの書き方を示しています。１）の右側の「みえこさんの吹き出しの例」に習って２）～８）の答えを書き入れますが，特に，以下の点に注意してください。

・文末に「。」を付ける。
・濁点「゛」を正確に付ける。
・「こんにちは」「こんばんは」の最後の「は」が「わ」にならないようにする。
　なお，６）の「ごめんなさい」については，高学年の子どもには「すみません」も教えるようにしてください。





２か

ねらい

１．名前や年齢など，簡単な自己紹介ができる。



ポイント解説

（１）わたしは　みえこです。

～は　名詞 です

［～は 名詞です］の文型を学習します。前半の「～は」は文の主題を示し，一方，後半の「名詞です」は述語として主題に関する情報を提供します。この文型は文末が「名詞です」となっているため名詞文と呼ばれ，「です」は非過去（現在・未来）の肯定を表します。

（２）わたしも　10さいです。

～も　名詞 です

［～は 名詞です］の文型です。「名詞です」の部分が同じ文が続く場合は，後の文の「は」が「も」に変わります。

例）みえこさんは　10さいです。　トムさんも　10さいです。



指導のヒント

（1）〜は　名詞 です

【文型導入】（あらかじめＴとＳの名前を書いた名札を用意する。ＴとＳは自分の名札を持つ）

Ｔ：（名札の名前を指しながら）わたしは（Ｔの名前）です。

Ｓ$_1$：わたしはＳ$_1$です。

Ｓ$_2$：わたしはＳ$_2$です。

【練習】自分の名前が言えるようになったら，文の前に「こんにちは」を付け加えて練習します。

【ことばの導入】数字と年齢の言い方の導入をします。まず，『みえこ』p.15の「◇すうじ①」を見ながら，０から20までの数字を練習し，それから「〜さい」の練習をします。（みえこ，まりこ，ヒトシの紙人形を準備）

みえこ：わたしは10さいです。

まりこ：わたしは11さいです。

ヒトシ：わたしは８さいです。

（2）〜も　名詞 です

【文型導入】（みえことトムの紙人形を準備）

みえこ：わたしは10さいです。

ト　ム：わたしも10さいです。



『れんしゅうちょう』の解説

1．「わたしは」の「は」が「わ」にならないように，気をつけます。

2．ほかの人の名前の後ろには「さん」を付けること，また４）は「エリカさんは」ではなく，「エリカさんも」となることに注意してください。





3か

ねらい

1．相手に名前や年齢などを尋ねたり，相手からの質問に答えたりすることができる。



ポイント解説

（1）あなたは　みえこさんですか。

～は　名詞 です＋か

『みえこ』２課で学習した名詞文［～は～です］の文末に「か」を付け加えると，疑問文になります。「何歳」「どちら」などの疑問詞を含まない疑問文は，真偽疑問文と呼ばれ，「はい」「いいえ」を使って応答します。

［～は～ですか］に対する応答は，［はい，～です］［いいえ，～じゃありません］になります。［～じゃありません］と同じ機能を果たす表現に［～ではありません］があります。学校現場では，後者の方がていねいで正式な表現というイメージがあるかもしれません。しかし，現代の話しことばでは，むしろ前者の方がよく使われており，目上の人や初対面の人に対して使っても失礼にはなりません。そのため『みえこ』では，［～です］の否定形としては，［～じゃありません］に統一して示しています。子どもには，これらの［～じゃ］と［～では］は同じと指導してください。力がある子どもには，［～ではありません］は書きことばでよく使う，ということを指導してもよいでしょう。

なお，日本語では，「あなたは」と「わたしは」は明言しないのが基本です。口頭練習は，これらを省略した形でも行ってください。特に，先生や目上の人に対して「あなたは」を使うと失礼になるので，注意してください。

（2）ブルーノさんは　なんさいですか。

～は　なんさいですか

この課では，「何歳」，「何年生」，「どちら」などの疑問詞を学習します。疑問詞を含む疑問文は，疑問詞疑問文と呼ばれ，「はい」「いいえ」を使わないで応答します。



指導のヒント

（1）～は　名詞 です＋か

【文型導入】（先生，みえこ，トムの紙人形と『？』『○』『×』カードを準備。カードの作り方は本書p.13を参照）

先　生：（『？』カードを見せる）（あなたは）みえこさんですか。

みえこ：（『○』カード）はい，（わたしは）みえこです。

先　生：(『？』カード) (あなたは) ルイスさんですか。
ト　ム：(『×』カード) いいえ，(わたしは) ルイスじゃありません。トムです。

【練習】まず，「あなたは」「わたしは」を省略しない文を練習し，次に，省略した文を練習します。否定の応答では，最後に正しい応答「～です」を付け加えるようにするといいでしょう。

(2) ～は　なんさいですか

【文型導入】(みえこ，まりこの紙人形と『？』カードを準備)
みえこ：わたしは10さいです。(『？』カードを見せる) まりこさんは何さいですか。
まりこ：11さいです。

【練習】『みえこ』p.18の「子ども同士の自己紹介」や，p.19の「先生と子どもとの会話」を参考にして，同様の練習をしてみてください。



『れんしゅうちょう』の解説

1．「はい」「いいえ」を使って応答します。
2．「はい」「いいえ」は使わずに応答します。先生と子ども一人ずつとで口頭練習をしてから，それぞれの子どもが自分自身について応答を書くようにしてください。





4か

ねらい 

1．物を指し示しながら，その名前を言ったり，尋ねたりすることができる。



ポイント解説

(1) これは　いすです。

これ/それ/あれは　名詞 です

この課では，物を指し示す「これ」「それ」「あれ」を学習します。基本的に，話し手の領域は「こ～」，聞き手の領域は「そ～」，話し手と聞き手から離れている領域は「あ～」で表します。

「これは～」の質問に対しては「それは～」，「それは～」の質問に対しては「これは～」で応答します。ただし，応答の中の「それは」「これは」は，例１）のようにたいてい省略されます（「あれは～」も同様です)。なお，物の名前を尋ねる疑問詞は「何(なん)」になります。

例１）｛ Ｑ：これは本ですか。　　｛ Ｑ：それはノートですか。
　　｛ Ａ：はい，（それは）本です。　　｛ Ａ：はい，（これは）ノートです。

「これは本ですか」のような疑問文（名詞文の真偽疑問文）に対しては，名詞の代わりに「そう」を用いて「はい，そうです」「いいえ，そうじゃありません」と応答することもできます。また，否定の応答については，「いいえ，ちがいます」という言い方もあります（例２））。

例２）｛ Ｑ：これは本ですか。　　｛ Ｑ：これはノートですか。
　　｛ Ａ：はい，そうです。　　｛ Ａ：いいえ，そうじゃありません。
　　（いいえ，ちがいます）

（２）これは　ボールペンですか，シャーペンですか。

～は　名詞$_1$ ですか，　名詞$_2$ ですか

［これ/それ/あれは～ですか，～ですか］は疑問形を並べて提示し，適切な文を選ばせる選択疑問文です。「はい」「いいえ」は使わずに応答します。



指導のヒント

（１）これ/それ/あれは　名詞 です

【ことばの導入】『みえこ』p.20やpp.23～24の「◇もののなまえ」を参考に，できるだけ実物を指し示しながら，物の名前を覚えます。

【文型導入１】

Ｔ：（手元のえんぴつを持つ）これはえんぴつです。
（Ｓの本を指す）それは本です。
（教室の時計を指す）あれは時計です。

【文型導入２】［～は何ですか］の導入。応答は「これ/それ/あれは」を省略しない形で練習します。（トムとみえこの紙人形を準備）

ト　ム：（えんぴつを持つ。えんぴつの上に『？』カードを置く）これは何ですか。
みえこ：それはえんぴつです。

【文型導入３】［～は～ですか］の導入。応答は「はい，そうです」「いいえ，そうじゃありません」で練習します。

（２）～は　名詞$_1$ ですか，　名詞$_2$ ですか

【文型導入】実際に，いろいろな物を指し示し［これ/それ/あれは～ですか，～ですか］と質問しながら練習します。応答は「これ/それ/あれは」を省略した形も練習してください。



『れんしゅうちょう』の解説

１．答えは全て「これは～」で書きます。
２．「これ」「それ」「あれ」の位置関係が正しく理解できているかどうか確かめてください。



5か

ねらい

1．物を指し示しながら，その所有者がだれかを言ったり，尋ねたりすることができる。



ポイント解説

（1）これは　わたしの　かさです。

〜は　名詞$_1$ ＋の＋名詞$_2$ です

［〜は名詞$_1$の名詞$_2$です］の文型です。「名詞$_1$の」は「名詞$_2$」を修飾してさまざまな意味を加えますが，この課では「名詞$_2$」の「所有者」を表し，疑問詞は「だれ」を用います。「名詞$_2$」が自明の場合は，しばしば省略され［〜は名詞$_1$のです］になります。

例）Q：これはだれの（かさ）ですか。
　　A：私の（かさ）です。

（2）みえこさんの　かさは　どれですか。

〜は　どれですか

疑問詞「どれ」（『みえこ』p.27）は，３つ以上の物の中から１つを選ぶ際に使われます。これに対して，「どちら」（『みえこ』p.98）は，２つの物の中から１つを選びます。混同しやすいので，注意が必要です。

なお，『みえこ』６課では「百」「千」「万」を使って物の値段の言い方を練習します。５課の文型が定着したら，６課での学習に備えて『みえこ』p.28の「◇すうじ②」を学習しておきましょう。



指導のヒント

（1）〜は　名詞$_1$＋の＋名詞$_2$ です

【文型導入１】

Ｔ：（Ｔの本を指す）これは私の本です。
　（Ｓ$_1$の本を指す）これはＳ$_1$さんの本です。
　（Ｓ$_2$の本を指す）これはＳ$_2$さんの本です。

【文型導入２】［〜はだれの〜ですか］の導入。

Ｔ：（Ｓ$_1$の本を持つ。本の上に『？』カードを置く）これはだれの本ですか。
Ｓ：それはＳ$_1$さんの本です。

【文型導入３】［～は～の～ですか］の導入。応答は「そう」を使わず，「はい，～の～です」「いいえ，～の～じゃありません」で練習します。

【練習】言えるようになったら，名詞[2]を省略した言い方［～のです］も練習してください。

（２）～は　どれですか

【文型導入】（先生とみえこの紙人形を準備）

先　生：(『みえこ』p.27の上の「かさの絵」の絵カードを見せ，「エリカのかさ（右端)」を指す)
みえこさんのかさはこれですか。

みえこ：いいえ，そうじゃありません。

先　生：(『？』カードを見せる）みえこさんのかさはどれですか。

みえこ：(「みえこのかさ（左端)」を指す）これです。

【練習】実際に，子どもの本やかばんを集めて同様の練習をしてみてください。



『れんしゅうちょう』の解説

１．応答は「～の～です」になります。

２．１）の答えの「ふえじゃありません」の「や」は小さく書くように，気をつけてください。
３）の応答は「～のです」になります。





6か

ねらい

1．物の値段の言い方を理解し，買い物をすることができる。



ポイント解説

（1）えんぴつは　50えんです。

～は　～円です

「百」「千」「万」などの大きな数字を使って，物の値段の言い方を学習し，日常生活で買い物などができるようにします。値段を尋ねるときには，疑問詞「いくら」を使います。

（2）この　くつしたは　380えんです。

この/その/あの　～は　～円です

『みえこ』４課で学習したように，基本的に，話し手の領域は「こ～」，聞き手の領域は「そ～」，話し手と聞き手から離れている領域は「あ～」で表します。「この」「その」「あの」の後ろには名詞を付けて，それぞれの領域内の物などを指し示します。

（3）これを　ください。

～を　ください

品物などがほしいときに，ほかの人に依頼したり丁寧に指示したりする表現です。特に，買い物するときによく使われ，「～を買いたいです」という話し手の意志を表します。



指導のヒント

（1）～は　～円です

【ことばの導入】物の値段の言い方を導入します。『みえこ』p.28の「◇すうじ②」を復習してから，実際にお金を見せて『みえこ』p.30下の表で「～えん」を練習します。

【文型導入1】（『みえこ』p.29の絵の拡大コピーを一つずつ切り離し，絵カードを作っておく）

Ｔ：（「かさ」の絵カードを見せる）かさは2,000円です。

【文型導入２】［～はいくらですか］の導入。

【文型導入３】［～は～円ですか］の導入。否定の応答では，「～じゃありません」を省略した言い方「いいえ，～です」も練習してください。（先生とトムの紙人形を準備）

先生：（「えんぴつ」の絵カードと『？』カードを見せる）えんぴつは100円ですか。

トム：いいえ，（100円じゃありません）。50円です。

（2）この/その/あの　～は　～円です

【文型導入】（Tの前に「かさ」，Sの前に「消しゴム」，TとSから離れた所に「かばん」の絵カードを置く）

T：（「かさ」の絵カードを指す）このかさ。このかさは2,000円です。

（「消しゴム」の絵カードを指す）その消しゴム。その消しゴムは100円です。

（「かばん」の絵カードを指す）あのかばん。あのかばんは25,000円です。

（3）～を　ください

【文型導入】（『みえこ』p.31下の「パンや」の絵を拡大コピーする）絵を見せながら，店の人とみえこの会話を導入します。

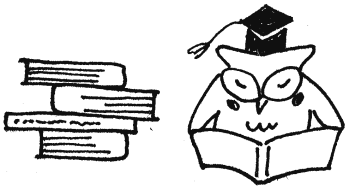
【練習】紙のお金を準備し，『みえこ』p.31を参考にして，買い物の練習をします。



『れんしゅうちょう』の解説

1．応答は数字で書きます。

2．数字を正しく読むことができるかどうか確かめるために，応答はひらがなで書きます。





7か

ねらい

1．人がいる場所や物がある場所について，説明したり尋ねたりすることができる。



ポイント解説

（1）ここは　たいいくかんです。

ここ/そこ/あそこは　名詞 です

物が存在する場所を説明するときに使われる文型です。『みえこ』４課では物を指し示す「これ」「それ」「あれ」を学習しました。この課では場所を指し示す「ここ」「そこ」「あそこ」を学習します。基本的に，話し手がいる場所は「ここ」，聞き手がいる場所は「そこ」，２人から離れている場所は「あそこ」を使います。

ただし，『みえこ』p.33の一番上の絵のように話し手と聞き手が同じ場所（領域）にいる場合は，２人がいる場所が「ここ」，２人から少し離れている場所は「そこ」，さらに離れた場所は「あそこ」となります。

（2）プールは　どこですか。

～は　どこですか

疑問詞「どこ」を用いて，物や人が存在する場所を尋ねる文型です。応答は「ここ」「そこ」「あそこ」や，場所の名前などを使って答えます（例１））。なお，「どこ」は所属している学校，会社，国などの名前を尋ねる場合にも用いられます（例２））。

例１）Ｑ：トムさんはどこですか。
　　Ａ：あそこ/運動場です。

例２）Ｑ：学校はどこですか。
　　Ａ：○○小学校です。



指導のヒント

（1）ここ/そこ/あそこは　名詞 です

【ことばの導入】『みえこ』p.32とpp.92～93の絵の拡大コピーを一つずつ切り離し，学校内のさまざまな部屋や場所の絵カードを作ります。その絵カードを見せながら，各部屋や場所の名前を導入しますが，このときはまだ「ここは」は使いません。

【文型導入１】（教室のいろいろな所に，部屋や場所の絵カードを置いておく。ただし，「図書室」は「保健室」の横に置き，「体育館」は離れた所に置く）

Ｔ：（まず，ＴとＳがいっしょに教室内を歩きながら，それぞれの絵カードの前に立つ）ここは体育館です。ここは職員室です。ここは理科室です。

（次に，Ｔは「保健室」，Ｓは「図書室」の絵カードの前に立つ）ここは保健室です。
そこは図書室です。あそこは体育館です。

【文型導入２】［～は ～ですか］の導入。（Ｔは「保健室」，Ｓは「図書室」の絵カードの前に立つ）

Ｔ：（『？』カードを見せる）そこは図書室ですか。

Ｓ：（『○』カード）はい，ここは図書室です。

（２）**～は　どこですか**

【文型導入１】（Ｔは「保健室」，Ｓは「図書室」の絵カードの前に立つ）

Ｔ：保健室はここです。図書室はそこです。（『？』カード）体育館はどこですか。

Ｓ：あそこです。

【文型導入２】（ルイスの紙人形を「理科室」，みえこの紙人形を「音楽室」の絵カードの上に置く）

Ｔ：ルイスさんは理科室です。（『？』カード）みえこさんはどこですか。

Ｓ：音楽室です。

【練習】実際に子どもと学校の中を移動しながら，応用練習をします。

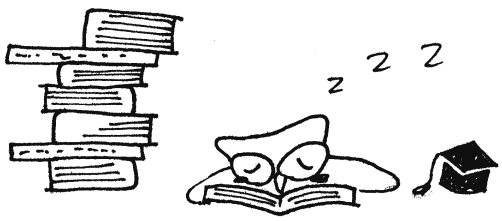


『れんしゅうちょう』の解説

１．全部「ここは～」で書きます。

２．「そう」を使って省略した形で応答する場合は，例）は「はい，そうです」，１）は「いいえ，そうじゃありません。（音楽室です）。」となります。

２）は「どこ」を使って，質問します。応答の「プールは」は省略することができます。





8か

ねらい

1．時刻を言ったり，尋ねたりすることができる。



ポイント解説

（1）いま　8じです。

～時です

この課では時刻の言い方を学びますが，まず「～時です」と「～時半です」を学習します。「4時」は「よんじ」，「9時」は「きゅうじ」とするまちがいが多く見られるので，注意してください。「～時」「～時半」が定着したら，「～分」を学習します。「半」は「30分」と同じであることを説明してください。「～分」は発音も難しく覚えにくいので，繰り返し練習するようにします。

（2）あさのかいは　8じ30ぷんから　8じ40ぷんまでです。

～は　～時から　～時まで　です

ここでは，「から」は時間の起点を表し，「まで」は終点を表します。「東京から大阪まで」のように場所の起点と終点を示す場合にも使いますが，この課では学習しません。「から」と「まで」のどちらか一つを取り上げ，［～は～時からです］［～は～時までです］と言うこともできます。



指導のヒント

（1）**～時です**

【ことばの導入1】「～時」と「～時半」の導入。（時計を準備する）

【文型導入1】

T：（短針を動かしながら）今1時です。2時です。3時です。

（長針を「6」に置き，短針を動かしながら）今1時半です。2時半です。3時半です。

【文型導入2】［（今）何時ですか］の導入。

T：（『？』カードを時計の上に置く）今何時ですか。

S：5時半です。

【ことばの導入2】「～分」の導入。

「5分，15分，25分…」はすべて「～ふん」となるので，これから導入します。次に「10分，20分30分…」，それから「1分，2分，3分…」の順に導入するといいでしょう。

【練習】時刻が言えるようになったら，『みえこ』p.38を見ながら，応用練習をします。

（2）**～は　～時から　～時まで です**

【文型導入】（『みえこ』p.39の日課表を拡大コピーして黒板に貼る）

Ｔ：（「朝の会」を指しながら）朝の会は８時30分（半）からです。朝の会は8時40分までです。朝の会は８時30分（半）から８時40分までです。

【練習】実際の日課表や時間割を使って，「～は何時からですか」などと質問をしながら練習をします。

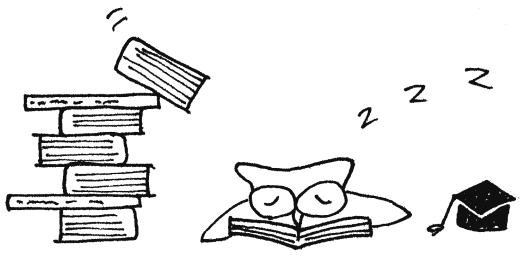


『れんしゅうちょう』の解説

1．応答の（　）には，ひらがなで読み方を書き入れます。

2．1），3），5）の応答は「～ぷん」になります。

3．「っ」や「ぷ」が正しく書けているかどうか確かめてください。





9か

ねらい

1．月日や曜日などを言ったり，尋ねたりすることができる。

2．過去について述べることができる。



ポイント解説

（1）きのうは　げつようびでした。

〜は　名詞 でした

『みえこ』２課では［〜は〜です］（名詞文の非過去（現在・未来）の肯定形），３課では［〜ですか］（疑問形）と［〜じゃありません］（否定形）を学習しました。この課では，［〜でした］（名詞文の過去の肯定形）と［〜じゃありませんでした］（否定形）を学習します。

否定形には，「〜ではありませんでした」や「〜じゃなかったです」などの形もありますが，『みえこ』および『続みえこ』では，話しことばで一番よく使われる「〜じゃありませんでした」を学習します。

月日や曜日などの「時を表すことば」は日常生活でよく用いられます。特に「〜日」の「1日〜10日」などは難しいため，一度に覚えられなくてもかまいません。日にちや時間をあけて，繰り返し練習するようにしてください。また，聞き取るときに「よっか」と「ようか」は間違えやすいので，注意してください。「時」を尋ねる疑問詞は，「何月」「何日」「何曜日」など以外に，「いつ」がよく使われます。



指導のヒント

（1）〜 は　名詞 でした

【ことばの導入】（カレンダーを準備する）カレンダーを使って，『みえこ』p.43の「◇月日のことば」と，p.44の「◇ときのことば」を学習します。p.40右下の「曜日」も導入してください。

【文型導入１】

Ｔ：（カレンダーのきょうの曜日を指して）きょうは〜曜日です。

（きのうの曜日を指して）きのうは〜曜日でした。

（『×』カードを見せる）きのうは（きのう以外の曜日）じゃありませんでした。

【練習】「〜日です」「〜日でした」の練習もします。

【文型導入２】［〜は 何日でしたか］の導入。

【文型導入３】［〜は 〜でしたか］の導入。（先生とみえこの紙人形を準備）

先　生：（『？』カード）きのうは〜日でしたか。

みえこ：（『○』カード）はい，〜日でした。

先　生：(『？』カード) きのうは（きのう以外の曜日）でしたか。

みえこ：(『×』カード) いいえ，(きのう以外の曜日) じゃありませんでした。～曜日でした。

【練習】紙人形を使いながら，『みえこ』p.42の「会話」を導入し，その後で，実際に日にちや曜日，子どもの誕生日などを尋ねる練習をしてください。



『れんしゅうちょう』の解説

1．（　）には，漢字の読み方を書きます。

2．「っ」が正しく書けているかどうか確かめてください。

3．8）は，先生が子ども一人ずつに「～さんの誕生日はいつですか」と質問してから，それぞれの子どもが自分自身について応答を書くようにします。

「◇ステップ１　まとめ（１～９か)」の解説



1．助詞などの復習です。それぞれの使い方が理解できているかどうか確かめます。

2．疑問詞の復習です。応答に注意しながら，正しい疑問詞を選ぶようにします。

3．どちらか正しい応答を選択する問題です。間違えやすい表現を取り上げているので，理解できていない場合は，復習してください。

4．数字の発音を正しく覚えているかどうか確かめる問題です。「ぴ」「び」「ゃ」「ゅ」などが正しく書けているかどうか気をつけてください。





10か

ねらい

1．日常生活における行動や，それが行われる時刻や期間について話すことができる。



ポイント解説

（1）べんきょうします。

動詞〈ます形〉「～ます」「～ません」

文末に動詞を使う文（動詞文）を学習します。「～ます」は非過去（現在・未来）の肯定で，現在の習慣的な行為や未来における行為などを表します。非過去の否定は「～ません」になります。

（2）わたしは　7じに　おきます。

～時＋に

動作が行われる日時を示すとき，ことばの中に数字を含む場合は助詞「に」を付け加えます（例1））。数字を含まない場合は不要です（例2））。曜日は，「に」を付ける場合と付けない場合があります（例3））が，『みえこ』および『続みえこ』では「に」を付けない表現を学びます。

例1）15日に東京へ行きます。
例2）あした東京へ行きます。
例3）日曜日（に）東京へ行きます。

（3）1じかん　あそびます。

名詞（期間）

期間の長さを表す「～分」「～時間」「～日」「～週間」「～か月」「～年」を学習します（「◇きかんのことば」（『みえこ』p.50））。「～分」「～日」「～年」については，後ろに「間（かん）」を付ける言い方もあります。疑問詞は，「何（なん）」を使った「～何分」「～何時間」など以外に，「どのくらい」がよく使われます。

（4）みえこさんは　きょう　べんきょうしますか。

動詞〈ます形〉＋か

名詞文と同様に，動詞文の文末に「か」を付け加えると疑問文になります。真偽疑問文の応答は，動詞を繰り返して，肯定は［はい，～ます］，否定は［いいえ，～ません］になります。名詞文のように，「そう」を用いて，「はい，そうです」「いいえ，そうじゃありません」と応答することはできないので，注意してください（本書p.27参照）。なお，応答では「～は」はたいてい省略されます。



指導のヒント

（1）動詞〈ます形〉「～ます」「～ません」

【動詞〈ます形〉の導入】（動詞の絵カードを準備。本書巻末の「基本の動詞 カード」利用。以下同様）

Ｔ：（絵カードを見せながら）起きます。寝ます。遊びます。勉強します。
（絵カードと『×』カード）起きません。寝ません。遊びません。勉強しません。

（2）～時＋に

【文型導入１】（動詞の絵カードと時計を準備する）

Ｔ：（「７時」の時計を見せる）朝７時です。（「起きます」の絵カード）起きます。みえこさんは７時に起きます。

【文型導入２】［何時に～ますか］の導入。

Ｔ：（「７時」の時計を見せる。時計の上に『？』カードを置く）みえこさんは何時に起きますか。

Ｓ：７時に起きます。

【練習】［～時から～時まで～ます］も，同様の導入をしてから練習します。

（3）名詞（期間）

【ことばの導入】まず，時計とカレンダーを使って，『みえこ』p.50の「◇きかんのことば」を学習します。それから，以下のような板書をして，「どのくらい」の説明をします。

（板書例）

？ ｛ なんぷん／なんじかん／なんしゅうかん／なんかげつ／なんねん ｝＝どのくらい

【文型導入１】

Ｔ：（『みえこ』P.50右上の「時計とみえこ」の絵カードを見せながら）みえこさんは４時から５時まで遊びます。みえこさんは１時間遊びます。

【文型導入２】［どのくらい（何時間）～ますか］の導入。

Ｔ：（『？』カード）みえこさんは何時間遊びますか。 みえこさんはどのくらい遊びますか。

Ｓ：１時間遊びます。

（4）動詞〈ます形〉＋か

【文型導入】（先生とトムの紙人形を準備）

先生：（『？』カード）トムさんはきょう勉強しますか。

トム：（『○』カード）はい，勉強します。

先生：(『？』カード) あしたは日曜日です。あした勉強しますか。
トム：(『×』カード) いいえ，勉強しません。

【練習】学習した文型を使って，子どもと各自の日常生活について話してみてください。



『れんしゅうちょう』の解説

1．2）と3）は，先生と子ども，あるいは子ども同士で，「～さんは～ますか」と質問してから，それぞれの子どもが自分自身について応答を書くようにします。

2．□の中の文を読んで，応答を書き込む読解問題です。2）と5）は「そう」を用いて応答することができないので，注意してください。□の中の文を参考にして，子どもが自分や家族の日常生活について書く練習をするといいでしょう。



11か



1．「行きます」を使って，さまざまな場所へ移動することが伝えられる。



ポイント解説

（1）みえこさんは　がっこうへ　いきます。

名詞（場所）＋へ　行きます

「行きます」は移動を表す動詞です。移動する方向や到達点は，場所を表すことばの後ろに助詞「へ」を付けて示します。「に」を使うこともできますが，ここでは取り上げていません。

場所を尋ねる疑問詞は「どこ」になります。否定の応答では，例）のように「どこ」に助詞「も」を付けます（『続みえこさんの日本語　指導のアクセス』p.87①参照）。

例）Q：あしたどこへ行きますか。
　　A：どこも行きません。

なお，『みえこ』p.52の下から3行目の「みえこさんとおかあさん」の「と」は，名詞を列挙する時に使われます。動詞や形容詞，文などを列挙する時には使うことができないので，注意してください。



指導のヒント

（1）名詞（場所）＋へ　行きます

【ことばの導入１】『みえこ』p.53の「◇みえこさんのかぞく」で，家族の呼び方を学習します。実際に，子どもが各自の家族の写真や絵を見ながら，覚えるようにするといいでしょう。

【ことばの導入２】『みえこ』pp.51～52の絵を見ながら，いろいろな場所の名前を覚えます。

【文型導入１】（『みえこ』p.52の「駅」と「銀行」の絵カードを準備し，黒板に離して並べておく。みえことおねえさんの紙人形を準備）

Ｔ：（みえこの紙人形を「駅」へ移動する）行きます。みえこさんは駅へ行きます。
（おねえさんの紙人形を「銀行」へ移動する）おねえさんは銀行へ行きます。

【文型導入２】［～はどこへ行きますか］の導入。

【練習】「きょう」「あした」「日曜日」などの，現在か未来を表す「ときのことば」も使いながら，自分や家族の日常生活について話す練習をします。なお，過去を表す「ときのことば」は使わないように気をつけてください（16課で学習します）。

【並列助詞「と」の導入】（『みえこ』p.52の「レストラン」の絵カードを準備し，黒板に置く。みえことお母さんの紙人形を準備）

Ｔ：（みえこの紙人形）みえこさん。（お母さんの紙人形）お母さん。みえこさんとお母さん。
みえこさんとお母さんはレストランへ行きます。



『れんしゅうちょう』の解説

1．2）の□は「へ」です。「え」と書かないように，注意してください。4）の□は，「は」ではなく「と」になります。

2．「じかんわり」を見て，どこに移動するかを考えて文を完成します。動詞はすべて「行きます」を使って書きます。実際の時間割も使って，練習してみてください。





12か

ねらい

1．さまざまな場所へ移動する際の手段や，一緒に行動する人物について話すことができる。



ポイント解説

（1）じてんしゃで　いきます。

名詞（乗り物）＋で　～へ　行きます/来ます/帰ります

『みえこ』11課では「行きます」を学習しましたが，この課では同じく移動を表す動詞「来ます」「帰ります」を導入し，さらに，これらの動詞と共によく用いられる助詞も学習します。

「行きます」と同様に，「来ます」「帰ります」も移動する方向や到達点は，場所を表すことばの後ろに助詞「へ」を付けて示します。

助詞「で」は名詞の後ろに付いて，さまざまな状況を詳しく伝える際に使われますが，ここでは乗り物を表す名詞に付いて交通手段を表しています。徒歩のときは，例外的に「歩いて」となります（これは動詞の「て形」という活用形になり，『みえこ』31課で学びます。ここでは詳しい説明はしないで，徒歩は「歩いて」とだけ教えてください）。疑問詞は「何(なん)で」という言い方もありますが，『みえこ』では「何(なに)で」で練習します。

（2）おかあさんと　いきます。

名詞（人）＋と

助詞「と」は，人（動物）に付いて共同動作の相手を表します。疑問詞は「だれ（何(なに)）と」になります。なお，行動を共にする相手がいない時は，「一人で」を使います。

12課の学習が終わったら，『みえこ』p.57の「◇うごきのことば①（どうし）」を学びます。実際に，体を動かしながら覚えるといいでしょう。



指導のヒント

（1）**名詞（乗り物）＋で　～へ　行きます/来ます/帰ります**

【ことばの導入】『みえこ』pp.54～55の絵や絵カードなどを利用して，乗り物の名前を導入します。

【文型導入１】

Ｔ：（『みえこ』p.54の絵を見せながら）ここは九州です。私は九州へ行きます。飛行機で行きます。飛行機で九州へ行きます。

【練習】行き先や乗り物を変えて練習します。動作を示しながら，「歩いて」も導入してください。

【文型導入２】［何(なに)で～へ行きますか］の導入。

【練習】「行きます」と同様に，「来ます」「帰ります」も導入して練習します。

（２）名詞（人）＋と

【文型導入１】（『みえこ』p.56の「バス」と「駅（「みえこ」は除く）」の絵カードを準備）

Ｔ：（「バス」の絵カードの「みえこ」を指す）みえこさんはバスで駅へ行きます。（「まりこ」を指す）まりこさんと行きます。みえこさんはまりこさんと駅へ行きます。（「バス」の絵カードの「まりこ」を隠す）みえこさんは一人で駅へ行きます。

【文型導入２】［だれと～ますか］の導入。

【練習】学習した文型を使って，自分や家族の日常生活について話す練習をします。



『れんしゅうちょう』の解説

１．応答は移動場所「～へ」を省略して，「～で～ます」と答えます。

２．４）は子どもが自分自身について応答します。





13か

ねらい 

1．さまざまな動詞を使って，日常生活における行動について話すことができる。



ポイント解説

（1）みえこさんは　かんじを　べんきょうします。

～を　動詞（他動詞）

『みえこ』10課～12課では，「起きます」「寝ます」などの動詞（自動詞）を学習しました。この課では「手紙を書きます」「本を読みます」などの動詞（他動詞）を学習します。他動詞には「～を」という目的語が付きますが，自動詞にはこれが付きません。

目的語のところを疑問の形にするときは，疑問詞「何（なに）」を使います。この疑問文への否定の応答は，例１）のように「何（なに）」に助詞「も」を付けて応答します。（『続みえこアクセス』p.87①参照）

例１）Q：何を飲みますか。
　　A：何も飲みません。

真偽疑問文の応答では「～を」は，たいてい省略されます（例２））。否定の応答では「～ません」を省略し，正しい応答を付け加えることもあります（例３））。

例２）Q：ジュースを飲みますか。
　　A：はい，(ジュースを)飲みます。

例３）Q：ジュースを飲みますか。
　　A：いいえ，(飲みません)水を飲みます。



指導のヒント

（1）**～を　動詞（他動詞）**

【ことばの導入】実物や絵カードを見せながら，食べ物や飲み物，スポーツなどの名前を導入します。

【文型導入１】（動詞の絵カードを準備）

Ｔ：（「食べます」の絵カードを見せる）食べます。朝ごはん。朝ごはんを食べます。
　（「飲みます」の絵カード）飲みます。ジュース。ジュースを飲みます。

【練習】さまざまな名詞と動詞を組み合わせて文を作る練習をします。絵カードを使ったり，ジェスチャーをしたりしながら覚えるといいでしょう。

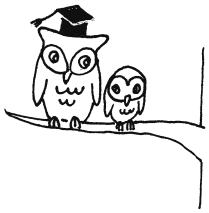
【文型導入２】［何を～ますか］の導入。

【文型導入３】［～を～ますか］の導入。応答は「～を」を省略した形も練習してください。

【練習】「きょう」「あした」「日曜日」などの，現在か未来を表す「ときのことば」も使いながら，日常生活について話す練習をします。

指導のヒント

1．2）～5）の「を」を「お」と書かないように，注意してください。
2．応答は「～を～ます」になります。
3．2）の応答は「いいえ，しません。サッカーをします」になりますが，「いいえ，サッカーをします」と簡潔に応答することもできます。



ステップ2 14か

ねらい

1．動作が行われる場所について話すことができる。

ポイント解説

（1）トムさんは　うんどうじょうで　あそびます。

名詞（場所）＋で

「行きます」「来ます」「帰ります」などの移動を表す動詞は，場所の後ろに助詞「へ」を付けて移動する方向や到達点を示します（『みえこ』11課～12課参照）（例1））。一方，「遊びます」「買います」などの動作を表す動詞の場合は，場所の後ろに助詞「で」を付けて，動作が行われる場所を示します（例2））。「へ」と「で」の使い方を間違えないように，注意してください。なお，場所を尋ねる疑問詞は「どこ」になります。

例1）場所 へ 移動を表す動詞（行きます/来ます/帰ります）
例2）場所 で 動作を表す動詞（遊びます/買います/しますなど）

14課の学習が終わったら，『みえこ』p.62の「◇うごきのことば②（どうし）」を学習します。p.57の「◇うごきのことば①（どうし）」では自動詞を学習しましたが，ここでは他動詞がまとめられています。実際に体を動かしたり，目的語の名詞をほかの名詞に変えたりして練習するといいでしょう。

なお，場所を示す助詞「で」は自動詞の表現でも他動詞の表現でも使われます。



指導のヒント

（1）名詞（場所）＋で

【ことばの導入】いろいろな店の名前を覚えます。

【文型導入１】（『みえこ』p.60の絵のカードを準備）

Ｔ：（「遊びます」の絵のカード）遊びます。（『？』カードを見せる）どこ？ 運動場。運動場で遊びます。

（「食べます」の絵のカード）お弁当を食べます。（『？』カード）どこ？ 山。山でお弁当を食べます。

【練習】さまざまな場所と既習の動詞を組み合わせて，文を作る練習をします。

【文型導入２】［どこで～ますか］の導入。

【練習】どんな場所でどんな行動や動作をするかを考えて，話す練習をします。「きょう」「あした」「日曜日」などの，現在か未来を表す「ときのことば」もいっしょに使ってみましょう。



『れんしゅうちょう』の解説

1．『みえこ』13課で学習した［～を～ます］の復習も兼ねた問題です。それぞれの場所で何をどうするかを考えて，p.30の１）～８）に文を記入します。

2．子どもが自分自身の生活について考え，「～で～ます」と答えます。





15か

ねらい

1．動作を行う際の手段や方法について話すことができる。

2．物の名前などについて，日本語でどう言うか尋ねることができる。



ポイント解説

『みえこ』12課では「乗り物」を表す名詞の後ろに「で」を付けて，交通手段を表すことを学びました。この課では，さらに「で」が，道具や文字，言語を表す名詞に付く用法を学びます。疑問詞は，12課と同様「何(なに)で」になります。

（1）はしで　ごはんを　たべます。

名詞（道具）＋で

さまざまな道具を表す名詞の後ろに「で」を付けて，動作を行うときに，どんな道具を用いるかを示します。

（2）ヒトシさんは　ひらがなで　かきます。

名詞（文字）＋で

ひらがなや漢字，あるいは外国語の文字（ハングルなど）のような，文字の種類を表す名詞の後ろに「で」を付けて，どんな文字で書くかを表します。

（3）トムさんは　にほんごで　はなします。

名詞（言語）＋で

言語名に「で」が付くと，言語手段を表します。［～語で～ます］の文型は，どんな言語でどんな動作を行うかを示すときに使われます。

［～は～語で～です］の文型は，ある言語におけることばを，ほかの言語ではどう言うかを説明する際に使われます。この文型の疑問文「～は日本語で何ですか」は，質問しながら日本語の語彙力を高めることができるので，とても便利な表現です（例)）。

例）Q：「book」は日本語で何ですか。

A：「本」です。

なお，『みえこ』pp.65～66には，これまで学習した文型を使った作文が載っています。内容について子どもにいろいろ質問してみてください。その後で，子ども同士で各自の予定について話し，それを作文に書くようにするといいでしょう。



指導のヒント

（1）名詞（道具）＋で

【文型導入１】（はさみと紙を準備）

Ｔ：（はさみを見せる）はさみ。（紙を切る）紙を切ります。はさみで紙を切ります。

【文型導入２】［何(なに)で～ますか］の導入。

（2）名詞（文字）＋で

【文型導入】

Ｔ：（黒板にＴの名前をひらがなで書く）ひらがな。名前を書きます。ひらがなで名前を書きます。

（Ｔの名前を漢字で書く）漢字。漢字で名前を書きます。

（3）名詞（言語）＋で

【文型導入１】

Ｔ：「こんにちは」。日本語。日本語で話します。「ハロー」。英語。英語で話します。

【文型導入２】［～は日本語で～です］の導入。

Ｔ：（本を指す）これは日本語で本です。これは英語でブックです。

【文型導入３】［～は日本語で何ですか］の導入。

【練習】さまざまな物を指しながら，子ども同士で練習します。「日本語」の代わりに，「ポルトガル語」など，ほかの言語で尋ねる練習もしてみてください。



『れんしゅうちょう』の解説

１．２）は，子どもが自分自身について応答する問題です。

２．１）は，「ボールペン」というかたかなが正しく書けているかどうかも確かめてください。

３．２）の応答は，子どもが名前をひらがな以外で書く場合は「いいえ，（ひらがなで書きません。）○○○で書きます。」となります。なお，（　）の中は省略することができます。

４．２）の質問文は「なにですか」と書かないように気をつけてください。





16か

ねらい

1．日常の動作やできごとについて，過去時制を使って表現できる。

2．動詞のグループ分け（グループ１，グループ２，グループ３）が理解できる。



ポイント解説

（1）きのう　うみで　およぎました。

動詞＜ます形＞「～ました」「～ませんでした」

『みえこ』10課～15課では，動詞＜ます形＞を使って，日常の動作や習慣，未来の予定を表現してきました。この動詞＜ます形＞は，語末を「～ました」「～ませんでした」と変化させることで，過去の動作や出来事およびその否定について表現します（『みえこ』p.71参照）。

	非過去（現在・未来）	過去
肯定	（あそび）ます	（あそび）ました
否定	（あそび）ません	（あそび）ませんでした

（2）動詞の分類

日本語教育の文法では，国文法とは異なる名称で動詞の分類をします。「◇ことばのグループ①」にはその分類が示してあります。このグループ分けをすぐ完全に覚える必要はありませんが，これから日本語を勉強し続けていくときに，たびたび必要になります。子どもとグループ分けのルールを確認しながら，繰り返し練習してください（『みえこ』p.72及び本書第１部参照）。



指導のヒント

（1）動詞＜ます形＞「～ました」「～ませんでした」

【ことばの復習】「◇ときのことば」（『みえこ』 p.44）を復習します。

【文型導入】「きのう　うみで　およぎました。」と板書をして，「きのう」と「～ました」に下線を引きます。「きのう」「おととい」など過去を示す言葉と共に動詞の語末が「～ました」に変化することを示します。

【練習】『みえこ』p.71の表を使って，口頭練習をします。文字カードや絵カードを使ったり，ゲームを取り入れるなどして，飽きさせないように工夫してください。

【動詞のグループ分けの導入】『みえこ』p.72を見ながら，動詞には「～ます」の前の音の違いによって，グループが三つあることを確認します。五十音図を黒板に貼るのも一つのアイデ

アです。

【練習】文字カードや絵カードなどを使って，グループに分ける練習をします。子どもが複数いる場合は，誰が早く分けることができるかを競うとゲーム性が出て面白いでしょう。



『れんしゅうちょう』の解説

1．動詞＜ます形＞の語尾変化の練習です。

2．過去の経験を問う疑問文の応答練習です。「なにを」の「を」を省略してしまわないように気をつけてください。子どもが疑問文を作る練習もしましょう。

3．過去の経験を問う疑問文の練習です。「はい／いいえ」を書き忘れないように注意してください。





17か

ねらい

1．動詞「あげます」などを使って、物を与える人を主語にした表現ができる。



ポイント解説

（1）トムさんは　みえこさんに　プレゼントを　あげます。

Aは　Bに　～を　あげます

この文型は，人物Aから人物Bへ物が移動することを，物を与える人物Aを主語にして，動詞「あげます」を使って表現します。人物Bは「に」をつけて示し，物は「を」をつけて示します。

例1）の文は，例2）のように人物Aを話し手（わたし）に置き換えることができます。しかし，例3）のように，人物Bを話し手（わたし）にすることはできません。例3）は子どもがよくやってしまう誤用です。例3）は正しくは動詞「くれます」を使いますが，この動詞の文型は『続みえこ』60課で学習します。

例１）みえこさん$_{A}$は　ブルーノさん$_{B}$に　プリントを　あげます。
例２）みえこ：　わたしは　ブルーノさんに　プリントを　あげます。（正）
例３）ブルーノ：みえこさんは　わたしに　プリントを　あげます。（誤）

（２）みえこさんは　トムさんに　でんわを　かけました。

Ａは　Ｂに　電話を　かけます／手紙を　書きます

［あげます］と同じ型をとる表現です。［～あげます］と同様に，人物Ｂは「に」をつけて示します。



指導のヒント

（１）

Ａは　Ｂに　～を　あげます

【文型導入】プレゼント等の実物を用意します。
Ｔ：プレゼントです。どうぞ。（Ｓにプレゼントを差し出す）
Ｓ：ありがとう　ございます。
Ｔ：（Ｓがプレゼントを受け取る前に止めて）わたしはプレゼントをあげます。（Ｓがプレゼントを受け取った後で）わたしはＳさんにプレゼントをあげました。（板書）
［～に～をあげます］が定着したら，［～に～をあげました］を導入して練習してください。なお，先生の持ち物を使うと，『みえこ』18課で学ぶ動詞「貸します」「借ります」と意味を混同するおそれがあるので，それ以外の物を使ってください。

（２）

Ａは　Ｂに　電話を　かけます／手紙を　書きます

【文型導入】
Ｔ：（『みえこ』p.74のはがきを見せる）みえこさんは手紙を書きました。先生に書きましたか。友だちに書きましたか。（『？』カードを見せる。）だれに書きましたか。
Ｓ：おばあさん。（まつもと　よしえさん）
Ｔ：みえこさんはおばあさんに手紙を書きました。



『れんしゅうちょう』の解説

１．［～に～をあげました］の文を作る練習です。助詞「に」「を」に注意をしてください。
２．疑問詞「だれ」を含む［～あげました］の練習です。「だれに」の「に」を省略してしまわないように気をつけてください。
３．［～に電話をかけます］［～に手紙を書きます］の練習です。なお『れんしゅうちょう２』p.72には，はがきの表と裏を書く練習があります。最後に実物のはがきを使って手紙を書く活動を行うと達成感が出ます。



18か

ねらい

1．動詞「もらいます」などを使って，物を受けとる人を主語にした表現ができる。



ポイント解説

（1）おかあさんは　みえこさんに　はなを　もらいます。

Bは　Aに　～を　もらいます

この文型は人物Aから人物Bへ物が移動することを，物を受けとる人物Bを主語にして，動詞「もらいます」を使って表現します。人物Aは「に」をつけて示し，物は「を」をつけて示します。［～あげます］と同様，例1）のように人物Bを話し手（わたし）にすることはできません。

例1）みえこさん：おかあさんは　わたしに　はなを　もらいます。（誤）

（2）おかあさんは　みえこさんに　とけいを　かしました。

みえこさんは　おかあさんに　とけいを　かりました。

Aは　Bに　～を　かします／Bは　Aに　～を　かります

動詞「かします／かります」は「あげます／もらいます］と同じ型をとる表現です。動詞「かします」の場合は，物を与える人が主語になり，「かります」の場合は，物を受け取る人が主語になります。



指導のヒント

（1）Bは　Aに　～を　もらいます

【文型導入】（みえことお母さんの紙人形，花束の絵を準備）

T：今日はお母さんの誕生日です。（みえこの紙人形を振って強調して）みえこさんはお母さんに花をあげます（花をみえこからお母さんへ移動）。（次にお母さんの紙人形を振って強調して）お母さんは花をもらいます。おかあさんはみえこさんに花をもらいます。（板書して，『みえこ』p. 74を見て確認）

［～に～をもらいます］が定着したら［～に～をもらいました］を導入して練習します。

（2）Aは　Bに　～を　かします／Bは　Aに　～を　かります

【文型導入1】（みえことトムの紙人形，トム用の消しゴムを準備）

みえこ：（消しゴムがなくて探している様子をする）消しゴム，消しゴム。トムさん，ちょっと消しゴム，いいですか。

ト　ム：はい，いいですよ。（消しゴムを貸す）

みえこ：（消しゴムで何かを消す様子をする。そしてトムに消しゴムを返す）どうもありがとう。

Ｔ：みえこさんはトムさんに消しゴムをもらいましたか。

Ｓ：いいえ。（もらいません。）

Ｔ：（うなづいて）これはトムさんの消しゴムです。（みえこを強調して）みえこさんは，トムさんに消しゴムをかりました。

【文型導入２】

みえこ：（もう一度，消しゴムがなくて探している様子をする）消しゴム，消しゴム。

ト　ム：みえこさん，どうぞ。（消しゴムを貸す）

みえこ：どうもありがとう。（何かを消すふりをして，トムに消しゴムを返す）

Ｔ：（トムを強調して）トムさんは，みえこさんに消しゴムを貸しました。

「かします」「かります」は，一時的にある所有者の物を使った後で，元の所有者に返すことを説明します。



『れんしゅうちょう』の解説

１．［～に～をもらいました］の文を作る練習です。助詞「に」「を」に注意をしてください。

２．疑問詞「だれ」を含む［～もらいました］の作り方の練習です。「だれに」の「に」を省略してしまわないように気をつけてください。

３．動詞「かします」「かります」の文を作る練習です。助詞の「に」「を」，文末の時制に注意をしてください。

「◇ステップ２　まとめ（10～18か）」の解説



１．これまで学者した助詞「に」「まで」「で」「へ」「で」「を」「に」の復習です。

２．疑問詞「なに」「どのくらい」「だれ」「なん」「どこ」の復習です。

３．主語を誰にするかによって，動詞が変わることを確認してください。

４．短い文章の読解練習です。まず，子どもは［　　］の中の文章を音読します。上手に読めたら，質問文１）～４）を音読します。その後，意味を確認しながら，○か×の答えを記入してください。





19か

ねらい

1．い形容詞を用いて，人や物事の様子を詳しく描写できる。



ポイント解説

（1）おおきい　くるまです。

い形容詞〈～い〉＋ 名詞

19課では初めて「い形容詞」を学習します（本書第１部参照）。形容詞には，「い形容詞」と「な形容詞」があります（「な形容詞」は後の22～24課で学びます）。い形容詞には，次の２つの用法があります。

①名詞を修飾する。　例）大きい 車 です。
②述語になる。　例）この車は大きいです。

『みえこ』では，19課で①の用法を学び，20課と21課で②の用法を学びます。

『みえこ』p. 80では，形容詞の意味を理解しやすくするために，反義語（反対の意味の言葉）で提示しています。「たかい（値段）」と「たかい（高さ）」，「あつい（気温）」と「あつい（温度）」の組のちがいにも気をつけてください。

なお，色を表す形容詞については，この課では「青い」と「赤い」しか示していませんが，子どもの理解に応じて「白い」「黒い」「黄色い」「茶色い」なども追加してよいでしょう。それ以外の色はい形容詞ではなく，「色（名詞）＋の＋名詞」になります（例「緑のえんぴつ」）。



指導のヒント

（1）い形容詞〈～い〉＋ 名詞

【ことばの導入】『みえこ』p.80の絵を使い，それぞれのことばの意味を導入します。

【文型導入１】（『みえこ』p.80の絵をカードにして見せながら）

Ｔ：大きいりんご。小さいりんご。大きいりんごです。小さいりんごです。

【練習】絵カードで，ペア合わせなどのゲームをすると，楽しく学習できます。

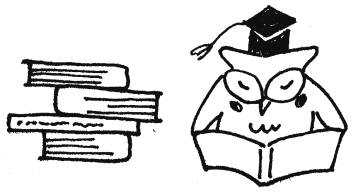
【文型導入２】「～はどんな＋名詞ですか。」の導入。この時，疑問詞は「なに」「なん」ではなく，「どんな」を使うことを確認します。



『れんしゅうちょう』の解説

1．い形容詞を覚えたかどうかを確認します。

2．絵を見て疑問文に対して答える練習です。選択肢のことば「あまい，ながい，やさしい，おもしろい，たのしい，くろい，からい，おいしい」は『みえこ』p.80で扱っていないので，問題に入る前に意味を導入しておきましょう。





20か



1．い形容詞を述部に用いて，人や物事の様子を描写できる。



ポイント解説

（1）この　へやは　ひろいです。

い形容詞　です

19課で学習したい形容詞を述部に使って，事物の様子を描写します。述部の「です」を省略した「この　へやは　ひろい。」という言い方もありますが，この段階では扱いません。述部に接続する疑問詞は，「どんな」ではなく「どう」を使うことに注意します。

（2）さむくないです。

い形容詞＜～い＞→〈～くない〉です

い形容詞の非過去・否定形は，語末の「い」をとって，「くないです」をつけて作ります。「さむいないです」「さむいじゃないです」のような誤用に注意してください。「いいです」の否定は，特別な形で，「よくないです」となります。



指導のヒント

（1）い形容詞 です

【ことばの復習】『みえこ』P.80の「◇ようすのことば」を復習します。

【文型導入１】（『みえこ』P.80の形容詞カードを準備）

Ｔ：りんごです。大きいりんごです。このりんごは大きいです。りんごです。小さいりんごです。このりんごは小さいです。

【文型導入２】（『みえこ』P.81の「あかるいへや」と「くらいへや」の絵を準備）

Ｔ：この部屋は明るいです。（『？』カードを見せる）この部屋はどうですか。

【練習】机の上に形容詞の文字カードを数枚並べておく。Ｔは名詞の絵カードを見せて「このりんごはどうですか。」などと質問する。子どもは答えを文字カードの中から一枚選んで答える。

（2）い形容詞＜～い＞→〈～くない〉 です

【文型導入】（大きいりんごと，小さいりんごの絵カードを準備）

Ｔ：（２枚のカードを見せてから，大きいりんごのカードを取り上げて）このりんごは大きいですか。小さいですか。

Ｓ：大きいです。

Ｔ：このりんごは大きいです。このりんごは小さくないです。

【練習】「さむいです」を「さむくないです」に変える練習を行います。その後，「はい／いいえ」を使って答える応答練習をしてください。なお，形容詞の疑問文の場合，その応答では必ず形容詞をくり返して答えます。「はい，そうです」「いいえ，そうじゃありません」は使えないので，注意してください。

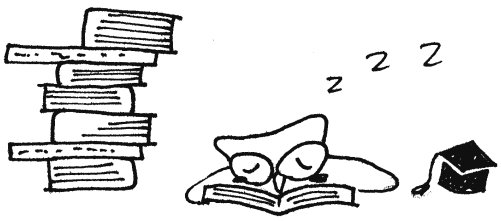


『れんしゅうちょう』の解説

１．い形容詞と，その否定形，反対の意味の言葉を書く練習です。

２．［～はどうですか］に対して答える練習です。選択肢の中から，子どもが自分の考えに合わせて適当なことばを選んでください。

３．疑問文に対して，子どもが自分のことについて「はい／いいえ」で答える練習です。





21か

ねらい

1．い形容詞を用いて，人や物事の様子を過去の時制で描写できる。

ポイント解説

（1）きょうの　たいいくは　たのしかったです。

い形容詞＜～い＞→〈～かった〉です

この課ではい形容詞の過去の時制を学びます。い形容詞の語末の「い」をとって，「かったです」をつけて作ります。「いいです」は特別で「よかったです」になります。

（2）テストは　むずかしく　なかったです。

い形容詞＜～い＞→〈～くなかった〉です

い形容詞の過去の否定形は，語末の「い」をとって，「くなかったです」をつけて作ります。「いいです」は特別で「よくなかったです」になります。

指導のヒント

（1）い形容詞＜～い＞→〈～かった〉です

【ことばの復習】これまで学習してきたい形容詞を，絵カードなどを使って復習しておきます。

【文型導入】（本やマンガなど，続きのものを２冊準備）

Ｔ：（後編の方を見せて）これは○○の本です。おもしろいです。私は，今晩，この本を読みます。

（前編の本を見せて）これも○○の本です。私はきのう読みました。この本はおもしろかったです。

【練習】「さむいです」を「さむかったです」に変える練習を，これまでに学習したい形容詞を用いて行います。

（2）い形容詞＜～い＞→〈～くなかった〉です

【文型導入】（子どもにはおもしろくなさそうな本を準備）

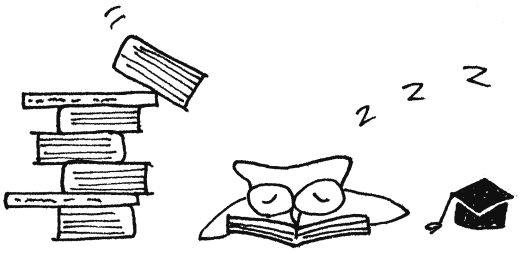
Ｔ：（本を見せて）私は，先週の日曜日，この本を読みました。でも，この本は，おもしろくなかったです。ぜんぶは，読みませんでした。

【練習】「さむくないです」を「さむくなかったです」に変える練習を，これまでに学習したい形容詞を用いて行います。



『れんしゅうちょう』の解説

1．い形容詞の［～かったです］と［～くなかったです］を書く練習です。
2．疑問文［～はどうでしたか］に答える練習です。
3．疑問文に「はい／いいえ」で答える練習です。子どもが自分のことについて考えて答えます。
4．『みえこ』 p.84の日記文を読んだ後で，答える問題です。上手に答えられないときは，『みえこ』 p.84に戻ってもう一度音読してから，再び問題に取り組んでみてください。
5．短いメモ書きの中で，い形容詞を過去時制に変える練習です。





22か

ねらい

1．な形容詞を用いて，物事の様子を描写できる。



ポイント解説

（1）きれいな　はなです。

な形容詞〈～な〉＋ 名詞

『みえこ』19～21課では，い形容詞を学習しました。（本書第１部参照）。な形容詞を学びます。い形容詞と同様に，な形容詞にも次の２つの用法があります。

①名詞を修飾する。　　例）きれいな花です。

②述語になる。　　例）この花はきれいです。

『みえこ』では，22課で①の用法を学び，22～24課で②の用法を学びます。

『みえこ』ｐ.86では，「な形容詞」の形を理解しやすくするため名詞を修飾する形［な形容詞＋名詞］で提示しています。特に，「きれいな」と「きらいな」は語末の「な」をとると，「い形容詞」と混同しやすいので注意してください。



指導のヒント

（1）な形容詞〈～な〉＋ 名詞

【ことばの導入】『みえこ』p.86の絵を使って，な形容詞を導入します。

【文型導入１】（『みえこ』p.86の絵カードを準備）

Ｔ：（［きれいな花］の絵カードを見せて）これは花です。きれいな花です。これはきれいな花です。

【文型導入２】［～はどんな～ですか］の導入

Ｔ：（『みえこ』p.87「しずかな町」の絵を見せる）これは町です。（『？』カードを見せる）これはどんな町ですか。

Ｓ：静かな町です。

【文型導入３】［私が好きな～は～です］の導入

Ｔ：（マンガを１冊準備して見せる）これはマンガです。私が好きなマンガです。私が好きなマンガは○○です。Ｓさん，あなたが好きなマンガはなんですか。

Ｓ：私が好きなマンガは△△です。

【練習】先生が「花」をキューとして出し，子どもが「きれいな花」とな形容詞を補って答えます。『みえこ』p.86の絵をカードにして，これをめくりながら行うとゲーム性が出て楽しいでしょう。



『れんしゅうちょう』の解説

1．ことばとしてな形容詞を覚えたかどうかを確認します。
2．疑問文［～はどんな～ですか］に対して，適当な形容詞を選んで応答する問題です。
3．［私が好きな～は～です］を使って，子どもが自分のことについて答える練習です。





23か

ねらい

1．な形容詞を用いて，現在や過去の状況を描写したり，感想を述べたりできる。



ポイント解説

（1）元気です。／元気じゃありません。

な形容詞＜～な＞ です

な形容詞が述語になる場合，肯定文は「元気な」の「な」を取って「です」を付けます。否定形は「元気な」の「な」を取って「じゃありません」を付けます。い形容詞の否定形と混同し「元気くないです」とする誤用が起りやすいので，注意してください。

（2）しんせつでした。／しんせつじゃありませんでした。

な形容詞＜～な＞ でした

な形容詞が述語になる場合，過去形は「親切な」の「な」を消して「でした」を付けます。

否定形は「親切な」の「な」を取って「じゃありませんでした」を付けます。い形容詞の否定形と混同した誤用（例「きれいくなかったです」）に注意してください。



指導のヒント

（1）**な形容詞＜～な＞ です**

【文型導入１】（『みえこ』p.86の絵をカードにして準備）

Ｔ：これは花です。きれいな花です。この花はきれいです。

【文型導入２】（『みえこ』p.87のお母さんの絵をそれぞれカードにして準備）

Ｔ：（元気なお母さんの絵を見せる）お母さんは元気ですか。

Ｓ：はい，元気です。

Ｔ：（病気のお母さんの絵を見せる）お母さんは元気ですか。

Ｓ：いいえ。

Ｔ：いいえ，元気じゃありません。病気です。

（2）**な形容詞＜～な＞ でした**

【文型導入１】（な形容詞「簡単な」の意味を確認しておく。）

Ｔ：（『みえこ』pp.122～125「ぶんけいといみ」の子どもの母語のところを読んでもらう。）（少し読んだら途中でたずねる）簡単ですか。

Ｓ：はい，簡単です。

Ｔ：（続きを読んでもらい，大体のところで終わって）いいですよ。（本を閉じさせる）これは簡単でしたか。

Ｓ：はい，簡単でした。

【文型導入２】（子どものレベルでは難しい文章を用意して読んでもらう。途中で終わって，本を閉じさせる）

Ｔ：これは簡単でしたか。

Ｓ：いいえ。

Ｔ：いいえ，簡単じゃありませんでした。

【練習】『みえこ』p.88はこれまでに学習した「な形容詞」を使った会話文です。先生役とブルーノ役に分かれて音読練習をし，内容の理解を確認してください。その後，い形容詞とな形容詞に下線を引いてみると，いい確認になります。



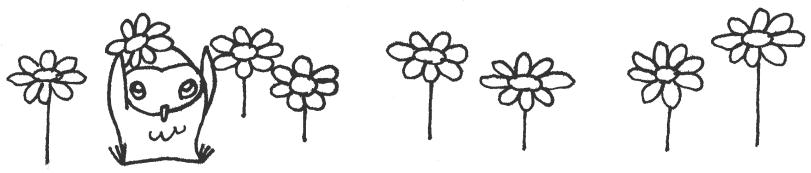
『れんしゅうちょう』の解説

１．な形容詞の活用をまとめる練習です。

２．３）と４）は，子どもが自分の場合について考えて答える問題です。

３．２．と同様の練習ですが，時制はすべて過去になっているので，注意してください。

４．『みえこ』p.88の本文に関する問題です。上手に答えられない場合は，もう一度『みえこ』p.88を音読してから，再び問題に取り組んでみてください。





24か

ねらい

1．物事の好き嫌いについて述べることができる。

2．得意なことについて述べることができる。



ポイント解説

（1）みえこさんは　ピアノが　すきです。

〜が　すき/きらいです

「すき」と「きらい」はどちらも「な形容詞」です（『みえこ』p.100参照）。どちらも人の好みを伝えるのに使われます。「好き／嫌い」の対象は「〜が」で示します。「〜をすきです」という誤用に注意してください。意味を強調する場合は「大(だい)すき」「大(だい)きらい」になります。ただし，「きらい」「大(だい)きらい」は強い意味を伝えてしまうので，軽く導入するだけにとどめます。代わりに「すきじゃありません」を使って練習してください。

（2）おにいさんは　ギターが　じょうずです。

〜が　じょうずです

「じょうず」も「な形容詞」で技術や能力が高いことを表します（『みえこ』p.100参照）。「わたし」を主語にして「わたしは○○がじょうずです。」と話すと，自慢をしているように聞こえます。自分のことを言うときは，「わたしは○○が得意です」を使うように指導してください。なお，「上手」の反意語は「下手」ですが，教育的配慮から『みえこ』では積極的には使わないようにしています。



指導のヒント

（1）〜が　すき/きらいです

【文型導入１】（カレンダーと『みえこ』p.99のスポーツの絵をカードにして準備）

Ｔ：先週の土曜日，サッカーをしました。日曜日，サッカーをしました。昨日もサッカーをしました。今日もサッカーをします。わたしはサッカーが好きです。

【文型導入２】（スポーツの絵カードを示して）

Ｔ：あなたは　なにが　すきですか。（『？』カードを見せる）

Ｓ：わたしは　バスケットボールが　すきです。

【文型導入３】（まりこ，トム，エリカの紙人形を準備）

まりこ：わたしは牛乳が好きです。トムさんも牛乳が好きですか。

トム　：はい，好きです。

まりこ：エリカさんも牛乳が好きですか。

エリカ；いいえ，好きじゃありません。きらいです。

【練習】（スポーツ，食べ物，果物などの絵カードを準備）上記同様の応答練習をします。「大好き」ということばも導入して，練習してください。

（2）**～が　じょうずです**

【文型導入】「わたしは～が上手です。」というのを避けるため，「私」以外を主語にして導入をします。

Ｔ：（あなたの）おにいさんはサッカーが上手ですか。

Ｓ：はい，上手です。

Ｔ：おにいさんは料理が上手ですか。

Ｓ：いいえ，上手じゃありません。



『れんしゅうちょう』の解説

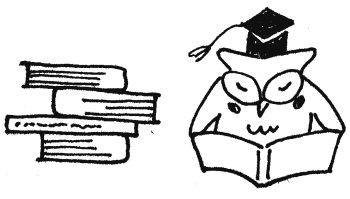
1．［～は～がすきです］の練習です。

2．疑問文への応答練習です。２）と４）は否定の文末の形に気をつけてください。

3．子どもが自分のことについて答える練習です。「私は」省略してもかまいません。

4．子どもの友だちを主語にして，いいところ探しの結果を発表する練習です。

5．クイズの正解は「カタツムリ」です。子どもと同じようなクイズを作ってもいいでしょう。





25か

ねらい

1．人や物の存在について言える。

2．場所・方向を表す言葉を理解する。



ポイント解説

（1）おんがくしつに　みえこさんが　います。

〜に　〜が　います

「います」は，人や動物などが存在することを示します。存在するのが物の場合は，「あります」になります。存在する場所は「に」で示されます。

場所が不明な場合は，例1）のように疑問詞「どこに」を使います。このとき，人物が主題化されると文頭に移動して，助詞が「が」から「は」に変わることに注意してください。

例1）Q：みえこさん[は]　どこにいますか。（＝どこに　みえこさん(が)　いますか。）

A：（みえこさん[は]）音楽室にいます。

（2）おんがくしつに　ピアノが　あります。

〜に　〜が　あります

「あります」は，物や植物が存在することを示します。「います」と同様，存在する場所は「に」で示されます。場所が不明な場合は，「います」と同様に，疑問詞「どこに」を使います。このとき，物が主題化されると，同様に文頭に移動して，助詞が「は」に変わります。

例2）Q：ピアノ[は]　どこにありますか。（＝どこに　ピアノ(が)　ありますか。）

A：（ピアノ[は]）音楽室にあります。

なお『みえこ』p.95には，場所や方向を示すことばがまとめられています。「右」「左」を言うときは，話し手の立場から見ての「右」「左」に限定して指導してください。「上の机」のような語順の誤りにも注意してください。



指導のヒント

（1）[〜に　〜が　います]

【ことばの復習】『みえこ』pp.32〜34，pp.92〜93を使って，場所を表すことばを復習しておきます。

【ことばの導入】『みえこ』p.95を見ながら，「◇ばしょ・ほうこうのことば」を導入します。

「あいだ」は「みえこさんとまりこさんのあいだ」となることに注意してください。

【文型導入１】（『みえこ』pp.92～93の絵を拡大して準備）

Ｔ：ここは理科室です。ルイスさんがいます。理科室にルイスさんがいます。

【文型導入２】（同じ絵を使用）

Ｔ：ここは運動場です。運動場にだれがいますか。

Ｓ：トムさんです。

Ｔ：（うなづいて）トムさんがいます。

【文型導入３】（同じ絵を使用）

Ｔ：あれ？みえこさんは？どこですか？（みえこを探すふりをする）みえこさんはどこにいますか。

Ｓ：音楽室。

Ｔ：（うなづいて）みえこさんは音楽室にいます。

（２）**～に　～が　あります**

【文型導入１】（『みえこ』pp.92～93の絵を拡大して準備）

Ｔ：ここは図書室です。本があります。図書室に本があります。

【文型導入２】［～に何がありますか］の導入

【文型導入３】［～はどこにありますか］の導入



『れんしゅうちょう』の解説

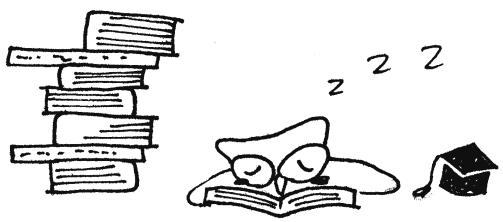
１．疑問文［～はどこにいますか］に答える練習です。『みえこ』pp.92～93の絵を見ながら答えます（２．と３．も同様です）。

２．疑問文［～はどこにありますか］に答える練習です。

３．「場所・方向のことば」を使って，教室の位置を説明する練習です。語順や，助詞の「の」「に」が正しく使えるかどうか確認してください。

４．疑問文［～はどこにいますか／ありますか］に対して，［場所・方向のことば］を使って答える練習です。

５．子どもが自分の状況について答える練習です。





26か

ねらい

1．助数詞を使って，物や人の数量をたずねたり，表したりすることができる。



ポイント解説

（1）かずの　ことば（助数詞）

人や物を数えるとき，何を数えるかによって，数え方が異なります。『みえこ』p.97「◇かずのことば」のように，数字にいろいろな助数詞をつけて使います。数によって読み方（発音）が変わることがあるので注意が必要です。『みえこ』p.97では，発音の変わるところが灰色に塗ってあります。特に数字の1，3，6，8，10，および「何」のときに注意してください。

（2）りんごが　いつつ　あります。

〜が＋＜助数詞＞＋います／あります

具体的な数を示す場合，「います／あります」の前に，助数詞を入れます。疑問詞は尋ねる対象によって変わります（『みえこ』p.97参照）。



指導のヒント

（1）かずの　ことば（助数詞）

『みえこ』p.97や実物を使いながら教えます。一度に全部覚える必要はありません。まず慣れることを目標にし，繰り返し復習してください。「ひとつ，ふたつ，・・・」はいろいろな物に使えるので，これから導入するとよいでしょう。

【ことばの導入】（箱に丸いマグネットや押しピンなどを入れておく）

Ｔ：（１つずつ数えながら取り出す）ひとつ，ふたつ，みっつ，…，とお。

「ひとつ，ふたつ，…」が一通り言えるようになったら，次に数字に助数詞を付けても発音が変わらないもの（〜枚）を導入します。子どもとプリントを数えるといいでしょう。その後，発音の変化が少ないものから順次導入していきます。

（2）〜が＋＜助数詞＞＋います／あります

【文型導入１】

Ｔ：（マグネットなどを数個取り上げて）マグネットがあります。ひとつ，ふたつ（数える），…いつつ。マグネットがいつつあります。

（子どもに数個渡して，『？』カードを見せる）マグネットがいくつありますか。

Ｓ：（数える）みっつ。

Ｔ：（うなづいて）マグネットがみっつあります。

【文型導入２】（『みえこ』p.96のりんごの絵のカードを準備）

Ｔ：りんごがいくつありますか。（りんごがたくさんある絵カードをちらりと見せてすぐ隠す。Ｓが「わからない」と文句を言い始めたら，再び見せる。数え始めたら，途中でさえぎる。）りんごがたくさんあります。（りんごが少しの絵を見せて）りんごが少しあります。

【文型導入３】（『みえこ』p.96一番下の絵を見せて）

Ｔ：ありません。何もありません。

【練習】教室内にあるいろいろなものを数える練習をします。



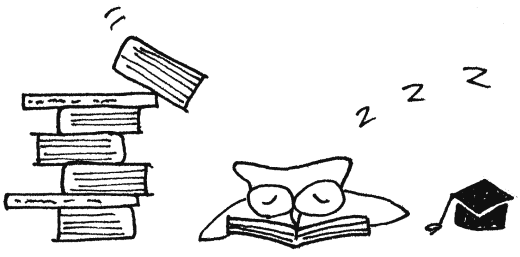
『れんしゅうちょう』の解説

１．「かずのことば」の表を埋める練習です。発音が変わるところに注意してください。

２．数える物や人に応じて助数詞を使い分けて，適当な動詞を選択する練習です。

３．適当な疑問詞を選んで疑問文を作り，それに応答する練習です。

４．適当な副詞（すこし，たくさん，なにも）を選ぶ練習です。





27か

ねらい

1．い形容詞とな形容詞を使って，比較表現を述べることができる。

ポイント解説

（1）しんかんせんは　でんしゃより　はやいです

名詞$_1$＋は　名詞$_2$＋より　形容詞 です

2つのものを比べて表します。Bを基準にしてAがどのような様子なのか述べます。

（2）りんごと　みかんと　どちらが　おおいですか。

名詞$_1$＋と　名詞$_2$＋と　どちらが　形容詞 ですか

2つのもの（AとB）を比べて，1つを選ばせる疑問文です。疑問詞は「何」「だれ」ではなく，「どちら」を使う点に注意をしてください。応答文は〔A／Bのほうが形容詞です〕となります。「ほう」は方面・方向という意味で，二つのものを比べて一方を示します。また応答文でAとBが同じような状態であること表現する場合，「どちらも」を使います。

（3）くだもの（の中）で　りんごが　いちばん　すきです。

名詞＋（の中）で　～が　いちばん　形容詞 です

比べる対象（範囲）の中で一番のものを尋ねて，これに答える表現です。果物，野菜，スポーツなど，あることばのグループを表す名詞によって比べる範囲を示します。比べる範囲がはっきりしている時は，「の中」を省略できます。

指導のヒント

（1）名詞$_1$＋は　名詞$_2$＋より　形容詞 です

【文型導入】（『みえこ』p.98のぞうとパンダの絵を見せる）

T：このぞうは800kgです。このパンダは200kgです。ぞうはパンダより重いです。

（板書をして「より」に下線を引く。）

（2）名詞$_1$＋と　名詞$_2$＋と　どちらが　形容詞 ですか

【文型導入１】（10個のりんごが描かれた絵と９個のみかんが描かれた絵を用意）

T：（絵を示しながら）りんごが多いですか。みかんが多いですか。

りんごとみかんとどちらが多いですか。

S：（数えてみる）りんご。

Ｔ：りんごのほうが多いです。

【文型導入２】（『みえこ』p.99から「すいか」と「いちご」を絵カードにして準備）

Ｔ：すいかといちごとどちらが甘いですか。（子どもたちの反応を聞いた後で）
すいかは甘いです。いちごも甘いです。どちらも甘いです。

（３）**名詞＋（の中）で　～が　いちばん　形容詞　です**

【文型導入】（『みえこ』p.99の絵を準備）

Ｔ：（くだもの全体を指しながら）くだものが好きですか。りんご？みかん？ぶどう？
くだものの何がいちばん好きですか。

Ｓ：りんご。

Ｔ：りんごがいちばん好きです。



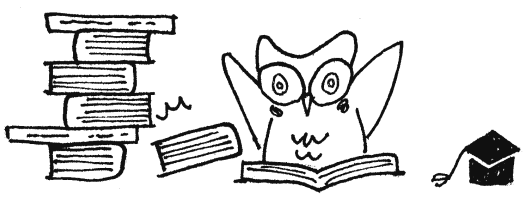
『れんしゅうちょう』の解説

１．［～は～より～です］の文を作る練習です。
２．疑問文［～と～とどちらが～ですか］を作り，これに答える練習です。
３．［～で～がいちばん～です］の文を作る練習です。
４．値段表を読み取って，比較文を作る練習です。
５．疑問文［～と～とどちらが～ですか］に対して，子どもが自分の場合について答える練習です。

「◇ステップ３　まとめ（19～27か）」の解説



１．１）～６）は四角の中に助詞を入れる練習です。７）は「な形容詞」の「な」を入れます。
２．適切な疑問詞を選んで入れる練習です。
３．２つのことばのうち，適切な方を選ぶ練習です。
４．疑問文に対する応答練習です。３）～５）は，子どもが自分の場合について答える練習です。





28か

ねらい

1．「ほしい」を使って自分が欲しいものについて表現できる。

2．名詞の代わりとなる「の」の用法を理解して，使えるようになる。



ポイント解説

（1）わたしは　サッカーボールが　ほしいです。

わたしは　～が　ほしいです

話し手が，いろいろなものを手に入れたいという欲求を表す文型です。「手に入れたいもの」は，助詞「が」を付けて示します。この文型は，主語が「わたし（は）」のときしか使えません。ただし，疑問文の場合は，例１）のように「あなた」は使えます。

例１）あなたはサッカーボールがほしいですか。

目前にいるのではなく話題の人物について話しているときは，例２）のように「ほしい」の代わりに「ほしがっている」を使いますが，この課では扱いません。

例２）ブルーノさんはサッカーボールをほしがっています。

「ほしい」は「い形容詞」ですが，子どもの母語によっては「動詞」として扱われるので，注意してください。

（2）わたしは　青いのが　いいです。

い形容詞／な形容詞＋の

会話の中で出てきた名詞をくり返して使うことを避けるために，「の」で置き換えて表現します。本文の例文は「青い紙」を「青いの」と置き換えています。「の」には下記のような用法もあるので，混同しないように注意してください。

例１）この本はわたしのです。

例２）この切手はブラジルのです。



指導のヒント

（1）**わたしは　～が　ほしいです**

【文型導入１】（ゲーム，自転車，人形など子どもが欲しいと思いそうな物を絵カードにして準備）

Ｔ：（自転車の絵カードを見せて）私のうちに自転車がありません。いつもスーパーへ歩いて行きます。大変です。自転車，いいですね。

わたしは自転車がほしいです。

【文型練習２】（『みえこ』p.103の状況を利用して，Ｔがサンタクロースを演じる）

Ｔ：わたしはサンタクロースです。今日はみなさんにプレゼントをあげます。（『？』カードを見せる）何がほしいですか。

Ｓ：自転車がほしいです。

【文型練習３】［どんな～がほしいですか］の導入。

【練習】色々なものを絵カード，写真，実物で見せて，応答練習をする。

（２）**い形容詞／な形容詞＋の**

【ことばの導入】（色鉛筆を準備）

Ｔ：（１本ずつ見せながら）赤いえんぴつ，青いえんぴつ，黒いえんぴつ。（言い換えて）赤いえんぴつ，青いの，黒いの。



『れんしゅうちょう』の解説

１．疑問文［何がほしいですか］への応答練習です。４）はサンタさんへの手紙を書きます。

２．既習の形容詞を使ってより詳しく欲しい物を表現する練習です。

３．［い形容詞／な形容詞＋の］を使って短く答える練習です。

４．ひらがなを一文字入れて，日記文を完成する問題です。□には助詞だけでなく，いろいろなことばの一文字も入ります。これまで学んだ文型がどれだけ定着しているか確認できます。





29か

ねらい

1．「～たいです」「～たくないです」を用いて自分の行動の欲求を表すことができる。



ポイント解説

（1）わたしは　おすしが　たべたいです。

わたしは　～が　動詞＜ます＞＋たいです

動詞の「ます形」の「ます」を取って，「たいです」を付けます。28課「～がほしいです」と同様に主語の制限があります。「あなたはおすしが食べたいです。」「シェーンさんはおすしが食べたいです。」という肯定文は作ることができません。目上の人に対しては，［～たいですか］使うと失礼なので，使わないように指導してください。「おすしを食べたいです」のように，この文型の目的語を助詞「を」で示すこともできますが，『みえこ』では基本的に助詞「が」を使っています。［～たいです］は，い形容詞とよく似た変化をし，否定形は［～たいくないです］になります（『みえこ』p.106参照）。

（2）おすしか　そばが　たべたいです。

名詞$_1$＋か＋名詞$_2$

この助詞「か」は，「名詞$_1$と名詞$_2$のうちどちらか一方」という意味を示します。「行くか行かないか」のように動詞などを使った表現もありますが，ここでは扱いません。



指導のヒント

（1）**わたしは　～が　動詞＜ます＞＋たいです**

【文型導入１】（食べ物や飲み物の絵カードを準備）。

Ｔ：おなかがすきました。（絵カードの食べ物を指して）おすし，いいですね。
わたしはおすしが食べたいです。

【文型導入２】

Ｔ：（絵カードの上に『？』カードを置く）Ｓさん，あなたは何が食べたいですか。

Ｓ：わたしはパンが食べたいです。

【練習】『みえこ』p.106を使って，肯定と否定の形を練習します。

【文型導入３】

Ｔ：（トマトの絵カードを見せて）わたしはトマトが好きじゃありません。嫌いです。食べません。わたしはトマトは食べたくないです。

（2）名詞$_1$＋か＋名詞$_2$

【文型導入】

Ｔ：わたしはおすしが食べたいです。おそばも食べたいです。２つはだめです。１つ食べます。
わたしはおすしかおそばが食べたいです。



『れんしゅうちょう』の解説

１．［～たいです］［～たくないです］の形を書き込む練習です。
２．文意に合う動詞を選び，［～たいです］に変えて文を作る練習です。
３．［～たいです］を使った疑問文とそれに答える応答練習です。
４．［～ません］を［～たくないです］に変えて文を作る練習です。
５．［～たいです］［～たくないです］を使って，ひとまとまりの文章を仕上げる練習です。





30か

ねらい

1．「～へ～に行きます」を用いて移動の目的が表現できる。



ポイント解説

（1）こうえんへ　あそびに　いきます。

～へ　動詞＜～ます＞＋に　いきます

この文型は，移動の目的を伝える表現です。［～へ＋行きます］と，その場所で行う動作を組み合わせて，一つの文で表します。「～へ」は行き先を示します。移動の目的は，動詞＜ます形＞の「ます」を取り，「に」を付け加えて示します。過去のことは，例１）のように，「行きます」の語末を変えて表します。

例１）昨日，公園へ遊びに行きました。

また，例２）のように［～へ～に来ました］という表現もありますが，『みえこ』では扱っていません。

例２）学校へ忘れ物を取りに来ました。



指導のヒント

（1）～へ　動詞＜～ます＞＋に　いきます

【文型導入】（「公園へ行きます」と「遊びます」を文字カードとして準備。ヒトシとまりこの紙人形も準備）

ヒトシ：今日公園へ行きます。

まりこ：何をしますか。

ヒトシ：遊びます。（言い換えて）今日公園へ遊びに行きます。

【練習】『みえこ』pp.107～108を参考に，２つの文を示して，１つの文にする練習をします。



『れんしゅうちょう』の解説

1．２つの文を１つの文にする練習です。□の中に入れる助詞に注意をしてください。

2．文意に合う動詞を語群から選び，［～へ～に行きます］の文を作る練習です。



31か

ねらい

1．簡単な指示や依頼が理解できる。

2．簡単な依頼ができる。



ポイント解説

（1）でんきを　つけて　ください。

動詞＜て形＞ ＋ ください

動詞＜て形＞を使った指示や依頼を表す表現です。［名詞+を ください］は物を要求する表現ですが，この［動詞＜て形＞+ください］は相手の行為を要求します。友だち同士やくだけた会話では「ください」を省略した形も使われます。なお，この文型には勧めの意味もあります（例「どうぞ食べてください」）が，この課では扱いません。

（2）動詞＜て形＞

動詞＜て形＞は，子どもたちが初めて学ぶ動詞の活用形で，「～て」または「～で」で終わる形です。これまで学習してきた動詞の形は＜ます形＞で，「ます」の部分だけが「～ました」や「～ません」などに変化していました。動詞＜て形＞は，日常生活でよく耳にするので一見簡単そうですが，形の作り方のルールは複雑です。特に，動詞のグループ1の場合には，下記のように「ます」の前の音によって，「～って」「～んで」「～いて」「～いで」「～して」の５種類に変化します。

なお，「行きます」は例外で，「行いて」ではなく「行って」となります。また，「～んで」に変化する「～にます」という動詞は，初級レベルでは「死にます」だけです。

動詞＜て形＞の作り方

グループ２：　～ます→～て

グループ１：

～いま す
～ちま す
～りま す
} →～って

～みま す
～びま す
～にま す
} →～んで

～きます→～いて
～ぎます→～いで
～しま す→～して
（※行きます→行って）

グループ３：　します→して　きます→きて

なお，この課の段階では「死にます」は，「死んで」という形が正しく作れるだけで十分です。うっかり，「死んでください」のような不適切な表現の練習を行わないように注意してください。ただし今後の学習においては，この＜て形＞を使って，例えば「（魚が）死んでいます」のような新しい文型を学び，表現の幅を広げていきます。「死にます」という動詞は，教育現場で

は一見扱いにくく感じますが，ペットや昆虫などに対しても使われ，子どもにとっては身近で基本的なことばです。



指導のヒント

（1）動詞＜て形＞ ＋ ください

【文型導入】実際に動作を行いながら導入します。初めに絵カードなどで，「みえこ」p.57とp.62の「◇うごきのことば①②」の動詞＜ます形＞と意味を確認しておきます。

Ｔ：（少し離れた所に鉛筆を落としておく）Ａさん，すみません，立ってください。

Ａ：（立つ。できなければＴが立つ動作を示す）

Ｔ：Ａさん，あのペンを拾ってください。

Ａ：（ペンを拾いに行く。できなければTが立つ動作を示す）

この導入のとき，先生の指示のことばが命令調にならないように注意してください。

［動詞＜て形＞+ください］の文型の意味が理解できたら，動詞＜て形＞の作り方を導入・練習します。それが一通りできるようになったら，再度［動詞＜て形＞+ください］の文型を練習します。すでに導入している「きょうしつの ことば」（「みえこ」p.1）も，子どもといっしょに確認するといいでしょう。

（2）動詞＜て形＞

【動詞＜て形＞の導入】「立ってください」「拾ってください」など，上記(1)で導入した文を板書。「～て」の部分に下線を引き，動詞＜て形＞という形（活用形）であることを説明します。

【動詞のグループ分けの復習】「みえこ」p.72を見ながら，動詞には「～ます」の前の音の違いによって，グループが３つあることを確認します。

【動詞＜て形＞の作り方の説明】まず，グループ２の動詞から導入します。これは，形を作るルールがグループ１よりも簡単なためです。「◇「～て（で）」のかたち（て形）」（「みえこ」p.110）を見ながら，＜ます形＞の「ます」を取って，「て」をつけることを説明します。次に，グループ１の動詞を導入します。同じ音変化の動詞ごとにまとめて，混乱させないように導入します。特に「行きます」は例外であることに注意をうながしてください。最後に，グループ３の動詞を導入します。

【動詞＜て形＞の練習】絵カードなどを使って，繰り返し練習します。初めは同じ音変化の動詞ごとにまとめて練習し，慣れてきたらばらばらにして練習してください。カルタ形式の錬習にすると楽しめます。



『れんしゅうちょう』の解説

１．動詞＜て形＞の形の作り方の練習です。ここに書き込む前に，必ず口頭練習を十分に行っておいてください。特にグループ１の＜て形＞が正しく作れているかどうか確認してください。

2．動詞＜て形＞の形の作り方の練習です。各ます目に動詞＜て形＞を書き込んで，グループ１の動詞のます目だけを赤く塗りつぶすと，数字の「５」が浮かび上がります。
3．［動詞＜て形＞+ください］を使った指示表現です。ここでは，先生から子どもへの指示となっています。目下から目上の人(例 子どもから先生)には使わないことを注意してください。
4．［動詞＜て形＞+ください］を使った依頼表現です。ここでは，子どもから先生や大人への依頼となっています。この表現は直接的なので，「あのう」「すみません」などの表現といっしょに使うように指導してください。





32か



1．進行中・継続中の動作を表す表現を理解し，表現できる。



ポイント解説

（1）いま　なにを　して　いますか。

動詞＜て形＞ + います

［～ています］は，使う動詞の種類によって，表される意味がちがってきます。下記のように基本的には大きく２種類あります。この課では①だけを学習し，②は『続みえこ』43課と57課で学習します。例文などを導入するときに，②の例が混ざらないように注意してください。

①継続：動作や作用を表す動詞を用いて，その動作／作用が継続中であることを表す。
　例)「歩いています」「ジュースを飲んでいます」など
②結果の状態：ある動作／作用が生じた結果，その状態が続いていることを表す。
　例)「帽子をかぶっています」「電気がついています」など

［～ていますか］という疑問文への応答は，「はい，動詞＜て形＞+います」「いいえ，動詞＜て形＞+いません」となります。「はい，います」「いいえ，いません」のように，動詞を省略しないように注意してください。



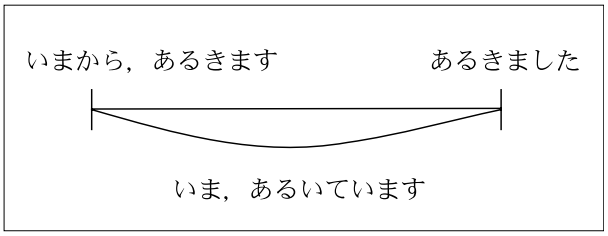
指導のヒント

（1）動詞＜て形＞ ＋ います

【復習】絵カードなどを使って，動詞＜て形＞を正しく作る練習をしておきます。

【文型導入１】（教室内の床に，カラーテープなどでスタート地点とゴール地点の印をつける）

Ｔ：（Ａに向かって）Ａさん，ここ（スタート地点）から，あそこ（ゴール地点）まで，歩いてください。（クラスに向かって）みなさん，今からＡさんが歩きます。（Ａが歩いている途中でクラスに向かって）Ａさんは，今，歩いています。（Ａがゴール地点に到着したときに）Ａさんは，歩きました。



（板書例）

先生が，もう一度再現した後で，板書する（上の板書例参照）。

【文型導入２】[～ていますか]の導入。

Ｔ：（Ｂに【文型導入１】と同様に，歩いてもらう。歩いている途中でクラスに向かって）Ｂさんは今，歩いていますか。

Ｓ：はい，歩いています。

Ｔ：（歩いている途中でクラスに向かって）Ｂさんは今，走っていますか。

Ｓ：いいえ，走っていません。

【文型導入３】[何を～ていますか]の導入。

Ｔ：（『みえこ』p.111を見ながら）みえこさんは，今何をしていますか。

Ｓ：（みえこさんは）テレビを見ています。



『れんしゅうちょう』の解説

１．［～ています］の作り方の練習です。

２．［～ています］の文型の中で，動詞＜て形＞の正確さを確認する練習です。

３．［～ていますか］の疑問文に対して，「はい」か「いいえ」で答える練習です。

４．絵を見ながら進行中の動作について描写する練習です。［なにを～ていますか］という疑問文への応答練習になっています。２）の「（手を）あげている」の場合には，①「継続中の動作」と②「結果の状態」両方の意味がありえますが，ここでは，①の意味で練習します。

５．上記４．と同様，絵を見ながら進行中の動作を描写する練習です。



33か

ねらい

1．許可を求めることができる。



ポイント解説

（1）いろを　ぬっても　いいですか。

動詞＜て形＞　＋　も　いいですか

［～てもいいですか］は，許可を求めたり，規則や規範をたずねたりする表現です。主語は，ふつう省略されます。この質問に対する応答は，次のようになります。

肯定の応答：「はい，いいです」「どうぞ」
（※「はい，～てもいいです」はほとんど使われません）
否定の応答：①規則などに関するとき　「いいえ，いけません」「いいえ，だめです」
「いいえ，～てはいけません」（※『みえこ』34課で学習）
②個人的なことに関するとき　「ごめんね。ちょっと…」

『みえこ』33課では，規則などに関する否定の応答として，「いいえ，いけません」のみを練習します。ただしこの表現は，緊急性や危険性，禁止度が高い状況などで使われ，強い語感を伴います。練習の場面設定などでは注意が必要です。

なお，質問文の形をとらない［～てもいいです］は，相手に許可を与える表現ですが，目上の人に対して使うと失礼になります。『みえこ』では，この表現は取り上げていません。



指導のヒント

（1）動詞＜て形＞　＋　も　いいですか

【復習】絵カードなどを使って，動詞＜て形＞を正しく作る復習をしておきます。

【文型導入１】

Ｔ：（消しゴムを探すふりをする）私の消しゴムがありません。Ａさん，消しゴムがありますか。わたしは，使いたいです。使います。いいですか。使ってもいいですか。

Ｓ：はい，いいです。

【文型導入２】［いいえ，いけません］の導入。

Ｔ：今日，みなさんは何で学校にきましたか。

Ｓ：歩いて来ました。

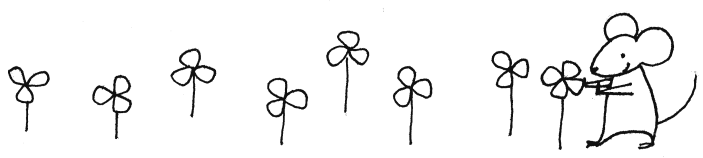
Ｔ：（みえこの紙人形を見せて）今日，みえこさんは，学校に一輪車で来ました。いいですか。学校に，一輪車で来てもいいですか。

S：いいえ。／だめです。
T：（言い直して）いいえ，いけません。



『れんしゅうちょう』の解説

1．［～てもいいですか］の作り方の練習です。この形を作ることは比較的簡単にできても，動詞のグループ名を書き込むのは，子どもにとっては難しいところです。でも，動詞のグループのちがいを正しく認識することは，これからさらに複雑な日本語の文型を学習するときに，どうしても必要になります。最初から全部正しく答えられなくてもかまいませんので，『みえこ』p.72やp.110を見ながらグループのちがいを確認し，復習してください。次の33課でも同様の練習をします。
2．［～てもいいですか］の文型の中で，動詞＜て形＞の正確さを確認する練習です。
3．［～てもいいですか］を使って，許可を得る練習です。
4．自分の欲求や希望を満たすために，［～てもいいですか］を使って，許可を得る練習です。
5．［～てもいいですか］という質問に対して，「はい」か「いいえ」で応答する練習です。





34か

ねらい

1．禁止されていることや規則などが理解できて，表現できる。

ポイント解説

（1）ろうかを　はしっては　いけません。

動詞＜て形＞ ＋ は　いけません

［～てはいけません］は，禁止を表す文型です。強い意味を伴うので，この課では，規則や交通ルールなどを示す場面に限定して練習します。

一つ前の33課では，許可を求める質問への否定の応答として「いいえ，いけません」を学習しました。これは，［～てはいけません］から，［～ては］を省略した形といえます。

例）S：ここで遊んでもいいですか。

T：いいえ，（遊んでは）いけません。

なお，「遊ぶな」「飲むな」「話すな」などの動詞の＜禁止形＞は，『続みえこ』第55課で学習します。

指導のヒント

（1）動詞＜て形＞ ＋ は　いけません

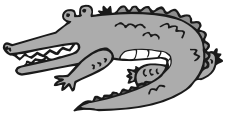
【文型導入1】（『みえこ』p.114の川の絵に，ワニの絵を示す）

T：この川に，ワニがいます。危ないですね。

この川で泳いでもいいですか。

S：いいえ，いけません。

T：（うなずいて言い直す）いいえ、泳いではいけません。危ないです。



『れんしゅうちょう』の解説

1．［～てはいけません］の作り方の練習です。32課に引き続き，動詞のグループ名を書き込む欄があります。『みえこ』p.72やp.110を見ながらグループのちがいを確認し，復習してください。

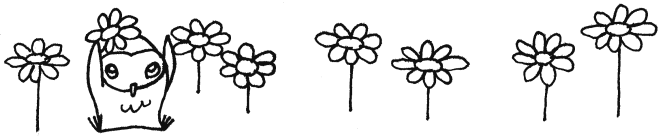
2．［～てはいけません］の作り方の練習です。応用練習として交通標識を追加するといいでしょう。

3．［～てはいけません］の文型の中で，動詞＜て形＞の正確さを確認する練習です。

4．先生が［～てはいけません］を使ってテストの指示説明をしている場面設定です。［～ません］の形から［～てはいけません］を作ります。うまく作れないときは，動詞を［～ます］の

形に戻してから，＜て形＞と［～てはいけません］を考えてみてください。

5．［～てはいけません］を含んだ読解問題です。答えは「図書室」です。





35か

ねらい

1．これまで学習した表現を使った文章を読んで，理解することができる。



ポイント解説

この課は，これまでの学習の総まとめです。どの日記文も，学習してきた文型を使って表現されています。基本的に，読み始める前に，まずは子どもといっしょに新しいことばの意味を確認しておきます。絵日記の絵を見ながら新しいことばを導入したり，あるいは，子どもといっしょに調べてみてもいいでしょう。

『れんしゅうちょう２』の問題は，『みえこ』35課本文の内容理解を確認するものです。日本語力が弱い子どもは，それぞれの日記文（本文）を読んでから，それに対応する問題を解きます。力がある場合は，日記文をいくつかまとめて読んでから問題に向かってもいいでしょう。読むときはぜひ，黙読ではなく，音読してください。内容が頭に残りやすくなり，発音のチェックもできます。なお，『みえこ』ではずっと横書きで学んできましたが，枠囲み内の日記文は縦書きになっています。縦書きに慣れるためにも，縦書きの日記文も音読してみましょう。



『れんしゅうちょう』の解説

『れんしゅうちょう』の問題は，『みえこ』の本文を少なくとも２回以上音読して，理解を口頭で確認した後で始めます。一度目は『みえこ』本文を見ないで，解いてみてください。このとき，わからないところ，不完全なところなどがあってもかまいません。むしろそれによって，読むための問題意識が生まれます。それらを確認する意味で，もう一度本文に戻って読んでみてください。

問題が解けたら，すらすらと読めるまで，くり返し音読してください。

たいふう　　：ことばや助詞，活用形などのひらがな一文字が，穴埋めになっている問題です。
うんどうかい：動詞を適当な形に変えて（　　）に入れる問題です。
おんがくかい：１．は文の順番を並べ替えて，一つの文章に整える問題です。２．は内容質問です。
おんせん　　：文の前（主部）と，文の後ろ（述部/動詞）を結びつける問題です。
はいしゃさん：（「**たいふう**」と同様の問題形式）
マラソン　　：（「**おんがくかい**」と同様の問題形式）

『れんしゅうちょう２』p.80は，絵日記を書くページになっています。子どもの学年や絵の苦手意識などに合わせて，日記文だけでもいいでしょう。小学校での日記文は基本的に縦書きですが，子どもの習熟度に応じて横書きでもかまいません。いずれの場合も，小さい文字（っ，ゃ，ゅ，ょなど）や句読点（。や,）を，マス目の正しい位置に書くように注意してください。

「◇ステップ４　まとめ（28〜35か）」の解説



１．助詞やその他のことばの一文字を埋める問題です。
２．動詞の形を変えて，文を完成させる問題です。１）～３）は動詞＜ます形＞の「ます」を取った形，４）～６）は動詞＜て形＞を使います。
３．状況に合わせて，適切な表現を選ぶ問題です。
４．子どもたちを教室から体育館へ誘導するために，先生と子どもたちがやり取りしている会話場面です。選択肢の中から動詞を選び，適当な形に変えて会話文を完成させます。
５．疑問文への応答問題です。子どもが自分のことについて答えます。
６．はがきを使って，手紙文を書く練習です。このページのはがきは，ほぼ実物サイズです。17課の応用学習として使ってもいいでしょう。
７．日記文を書く練習です。基本的には，35課の学習後，総合練習として書いてみることを想定しています。

●本書を執筆するにあたって参考にした文献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

岡崎敏雄・岡崎眸著，日本語教育学会編（1990）『日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ』凡人社

グループ・ジャマシイ編著（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

国際交流基金（2006）『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第1巻 日本語教師の役割／コースデザイン』ひつじ書房

スリーエーネットワーク編著（2000）『みんなの日本語 初級Ⅰ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク

スリーエーネットワーク編著（2001）『みんなの日本語 初級Ⅱ 教え方の手引き』スリーエーネットワーク

高見澤孟・ハント蔭山裕子・池田悠子・伊藤博文・宇佐見まゆみ・西川寿美（2004）『新・はじめての日本語教育１』アスク

高見澤孟（2004）『新・はじめての日本語教育２』アスク

東京外国語大学留学生日本語教育センター指導書研究（2009）『直説法で教える日本語』東京外国語大学出版会

富田隆行（1991）『基礎表現50とその教え方』凡人社

富田隆行（1991）『文法の基礎知識とその教え方』凡人社

友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2000）『どんなときどう使う 日本語表現文型200 初・中級』アルク

友松悦子・和栗雅子（2004）『初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

友松悦子・宮本淳・和栗雅子（2007）『どんな時どう使う日本語表現文型辞典』アルク

日本語教育学会編（1982）『日本語教育事典』大修館書店

日本語教育学会編（2005）『新版 日本語教育事典』大修館書店

日本語教育研究会資料シリーズ編集委員会編，バルダン田中幸子・猪崎保子・工藤節子著（1988）『プロジェクト・ワーク』，日本語教育資料シリーズ：コミュニケーション重視の学習活動１，凡人社

縫部義憲（1999）『入国児童のための日本語教育』スリーエーネットワーク

縫部義憲（2002）『多文化共生時代の日本語教育』瀝々社

Makino, Seiichi and Michio Tsutsui（1986）*A Dictionary of Basic Japanese Grammar*, Japan Times

丸山敬介（1994）『日本語教育演習シリーズ① 教えるためのことばの整理 Vol.1』凡人社

丸山敬介（1994）『日本語教育演習シリーズ② 教えるためのことばの整理 Vol.2』凡人社

丸山敬介（1995）『日本語教育演習シリーズ③ さまざまな表現 Vol.1』凡人社

丸山敬介（1995）『日本語教育演習シリーズ④ さまざまな表現 Vol.2』凡人社

丸山敬介（2003）『日本語教育演習シリーズ⑤ 教え方の基本（改訂版）』凡人社

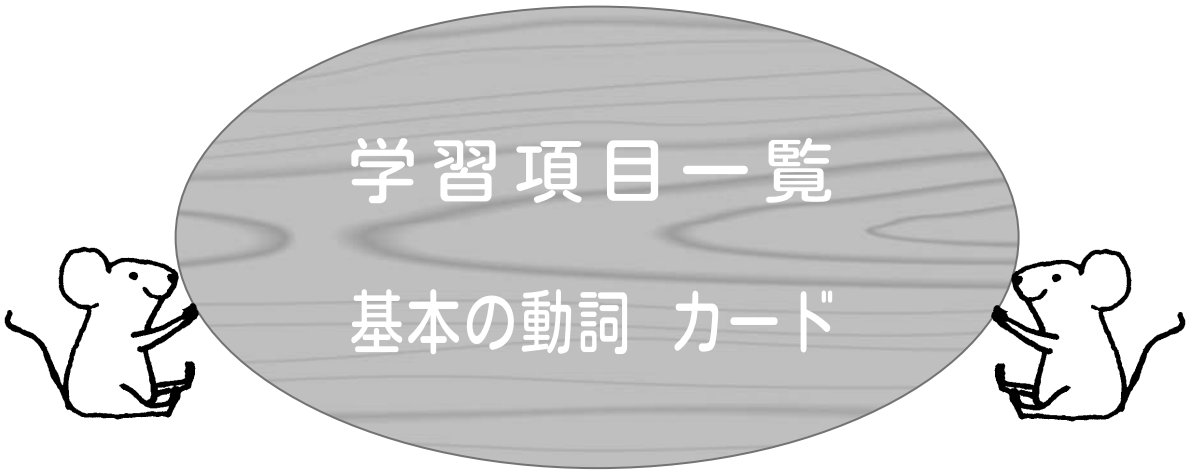
丸山敬介（2004）『日本語教育演習シリーズ⑥ 授業の組み立て』凡人社

森田良行（2004）『基礎日本語辞典（第九版）』角川書店

山下暁美・沢野美由紀（2008）『日本語教育文法講義ノート　―書き込み式でよくわかる』アルク

山本紀美子・荻野誠人・浅井清子・吉田絹子（1996）『子供のための日本語教育』アルク

― 付　録 ―



学習項目一覧

V＝動詞，　いAdj＝い形容詞，　なAdj＝な形容詞，　N＝名詞

ステップ	課	学 習 文 型	主 な 文 法	◇ことば
1	1課	(1)あいさつ	あいさつ	
	2課	(1)わたしは　みえこです。 (2)わたしも　10さいです。	～は Nです， ～も Nです	数字①
	3課	(1)あなたは　みえこさんですか。 (2)ブルーノさんは　なんさいですか。	～は Nですか，　～は　Nじゃありません， ～は なんさいですか	
	4課	(1)これは　いすです。 (2)これは　ボールペンですか、シャーペンですか。	これ/それ/あれは Nです， ～は N_1ですか、N_2ですか	物の名前
	5課	(1)これは　わたしの　かさです。 (2)みえこさんの　かさは　どれですか。	～は N_1＋の＋ N_2です， ～は どれですか	数字②
	6課	(1)えんぴつは　50えんです。 (2)この　くつしたは　380えんです。 (3)これを　ください。	～は～円です， この/その/あの　＋～は　～円です， ～を　ください	
	7課	(1)ここは　たいいくかんです。 (2)プールは　どこですか。	ここ/そこ/あそこは Nです， ～はどこですか	
	8課	(1)いま　8じです。 (2)あさのかいは　8じ30ぷんから 8じ40ぷん　までです。	～時です， ～は ～時から ～時まで です	
	9課	(1)きのうは　げつようびでした。	～は Nでした， ～は Nじゃありませんでした	月日のことば， 時のことば
2	10課	(1)べんきょうします。 (2)わたしは　7じに　おきます。 (3)1じかん　あそびます。	V-ます，　V-ません， ～時＋に ， N（期間）	期間のことば
	11課	(1)みえこさんは　がっこうへ　いきます。	N(場所)＋へ　行きます	みえこさんの家族
	12課	(1)じてんしゃで　いきます。 (2)おかあさんと　いきます。	N(乗り物)＋で　～へ　行きます/来ます/帰ります， N(人)＋と	動きのことば① (動詞)
	13課	(1)みえこさんは　かんじを　べんきょうします。	～を　V(他動詞)	
	14課	(1)トムさんは　うんどうじょうで　あそびます。	N(場所)＋で	動きのことば② (動詞)
	15課	(1)はしで　ごはんを　たべます。 (2)ヒトシさんは　ひらがなで　かきます。 (3)トムさんは　にほんごで　はなします。	N(道具)＋で ， N(文字)＋で ， N(言語)＋で	
	16課	(1)きのう　うみで　およぎました。	V-ました，　V-ませんでした	ことばの グループ①
	17課	(1)トムさんは　みえこさんに　プレゼントを あげます。 (2)みえこさんは　トムさんに　でんわを かけました。	～は ～に ～を あげます ～は ～に 電話をかけます／手紙を書きます	
	18課	(1)おかあさんは　みえこさんに　はなを もらいます。 (2)おかあさんは　みえこさんに　とけいを かしました。	～は ～に ～を もらいます ～は ～に ～を かします／かります	

V＝動詞，　いAdj＝い形容詞，　なAdj＝な形容詞，　N＝名詞

ステップ	課	学 習 文 型	主 な 文 法	◇ことば
3	19課	(1)おおきい　くるまです。	いAdj＋N	様子のことば① (い形容詞)
	20課	(1)このへやは　さむいです。 (2)さむくないです。	いAdj-です， いAdj-くないです	
	21課	(1)きょうの　たいいくは　たのしかった。 (2)テストは　むずかしくなかったです。	いAdj-かったです， いAdj-くなかったです	
	22課	(1)きれいな　はなです。	なAdj＋N	様子のことば② (な形容詞)
	23課	(1)元気です。／元気じゃありません。 (2)しんせつでした。／しんせつじゃありませんでした。	なAdj-です，なAdj-じゃありません， なAdj-でした，なAdj-じゃありませんでした	
	24課	(1)みえこさんは　ピアノが　すきです。 (2)おにいさんは　ギターが　じょうずです。	～が　すき／きらいです， ～が　じょうずです	
	25課	(1)おんがくしつに　みえこさんが　います。 (2)おんがくしつに　ピアノが　あります。	～に　～が　います ～に　～が　あります	場所・方向の ことば
	26課	(1)りんごが　いつつ　あります。	助数詞，副詞	数のことば
	27課	(1)しんかんせんは　でんしゃより　はやいです。 (2)りんごと　みかんと　どちらが おおいですか。 (3)くだもの(の中)で　りんごが　いちばん すきです。	N_1＋は　N_2＋より　Adj-です， N_1＋と　N_2＋と　どちらが　Adj-ですか， N＋(の中)で　～が　いちばん　Adj-です	ことばの グループ②③
4	28課	(1)わたしは　サッカーボールが　ほしいです。 (2)わたしは　青いのが　いいです。	わたしは～が　ほしいです， Adj＋の	
	29課	(1)おすしが　たべたいです。 (2)おすしか　そばが　たべたいです。	わたしは～が　V-たいです， N_1＋か＋N_2	
	30課	(1)こうえんへ　あそびに　いきます。	N(場所)＋へ　V-に　行きます	
	31課	(1)でんきを　つけて　ください。	V-て形， V-て形＋ください	「～て(で)」の形 (て形)
	32課	(1)いま　なにを　して　いますか。	V-て形＋います	
	33課	(1)いろを　ぬっても　いいですか。	V-て形＋も＋いいですか	
	34課	(1)ろうかを　はしっては　いけません。	V-て形＋は＋いけません	
	35課	えにっきを　かきました。	総復習	

「基本の動詞　カード」の使い方

このカードは，『みえこ』の中に出てくる基本的な動詞（合計36個）を選び出したものです。この動詞は，『みえこ』の「◇うごきの ことば ①②」（p.57，62）に加えて，繰り返し練習が必要な基本動詞から選んでいます。（ただし，「しにます」は「◇～て（で）の かたち（てけい）」（p.110）にのみ出てきますが，重要な動詞なので取り上げています。）

＊カードの作り方

pp.91～99 ページは，向かって左側が「絵カード」，右側がその絵に対応する「文字カード」になっています。実際に使用するときは，このページを拡大コピーして，実線部分を切り離し，カード型にします。中央の点線部分を切り離さずに，山折りにして内側を糊付けすると，表面が絵，裏面が文字のカードになります。

＊カードに付けられている記号の意味

絵カード　　右上の丸数字：　このカードの通し番号
文字カード　右上の旗印：　　動詞のグループ名（グループ1～グループ3）
文字カード　右下の数字：　　『みえこ』で初めて出てくる課（初出課）

＊カードの活用方法

例１）動詞の意味の導入として，絵カードを見せる。
例２）口頭ドリルの手がかり（キュー）として使う（本書の第一部p.12参照）
　　ほとんどの場合は，文字カードよりも絵カードを子どもに見せる方がよいでしょう。子どもがカードに慣れてくれば，先生がことば（キュー）を話さなくても，絵カードを見せるだけで，口頭ドリルができるようになります。
例３）カードを２セット作り，絵カードと文字カードでカルタとりのようなゲームを行う。
その他にも，いろいろな活用方法が考えられますので，ぜひ工夫してみてください。

なお，い形容詞とな形容詞については，『みえこ』の「◇ようすの ことば ①②」（p.80，86）が一覧になっていますので，その絵を使って同じようなカードを作っておくとよいでしょう。『みえこさんの にほんご』シリーズの絵カード集もぜひご活用ください。

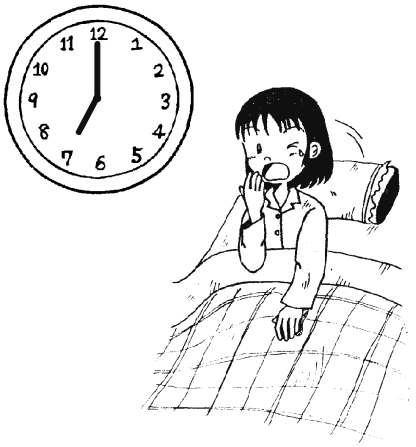
基本の動詞 カード リスト

No.	動　　詞	グループ	課　※
①	おきます	2	10か
②	ねます	2	10か
③	べんきょうします	3	10か
④	あそびます	1	10か
⑤	いきます	1	11か
⑥	きます	3	12か
⑦	かえります	1	12か
⑧	たべます	2	13か
⑨	のみます	1	13か
⑩	ききます	1	13か
⑪	かきます	1	13か
⑫	よみます	1	13か
⑬	みます	2	13か
⑭	(そうじを) します	3	13か
⑮	かいます	1	13か
⑯	およぎます	1	14か
⑰	きります	1	15か
⑱	はなします	1	15か
⑲	つくります	1	15か
⑳	あらいます	1	16か
㉑	てつだいます	1	16か
㉒	(でんわを) かけます	2	17か
㉓	あげます	2	17か
㉔	もらいます	1	18か
㉕	かします	1	18か
㉖	かります	2	18か
㉗	はいります	1	22か
㉘	います	2	25か
㉙	あります	1	25か
㉚	しにます	1	(31か)
㉛	まちます	1	32か
㉜	(しゃしんを) とります	1	32か
㉝	はきます	1	32か
㉞	はこびます	1	32か
㉟	つけます	2	33か
㊱	ふきます	1	33か

※当該の動詞が『みえこ』に初めて出てくる課（初出課）

基本の動詞 カード

①



2

おきます

10か

②



2

ねます

10か

③



3

べんきょう
します

10か

④



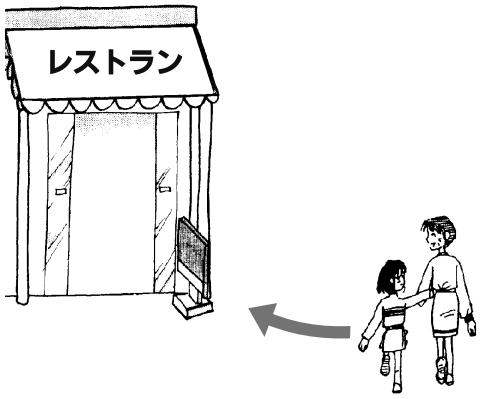
1

あそびます

10か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のブループ名，　～か：『みえこ』での初出課

⑤

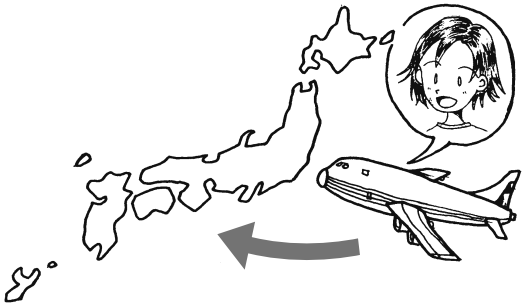


1

いきます

11か

⑥

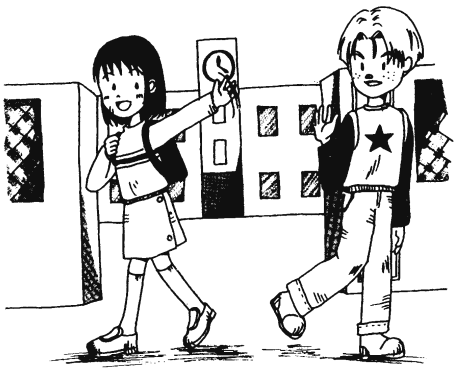


3

きます

12か

⑦



1

かえります

12か

⑧



2

たべます

13か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のグループ名，　～か：『みえこ』での初出課

⑨



1

のみます

13か

⑩



1

ききます

13か

⑪

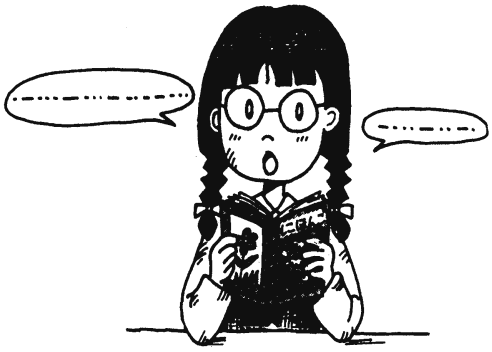


1

かきます

13か

⑫



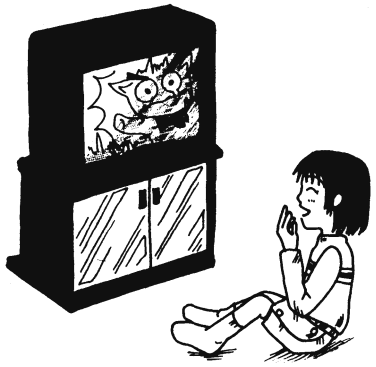
1

よみます

13か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のブループ名，　～か：『みえこ』での初出課

⑬

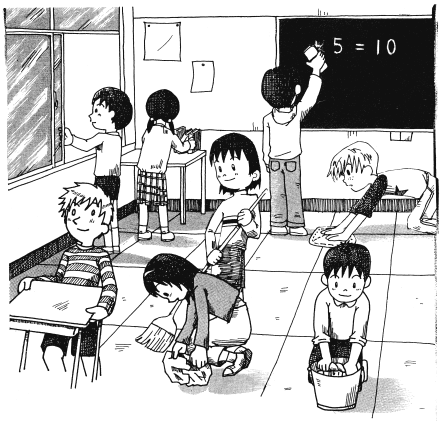


2

みます

13か

⑭

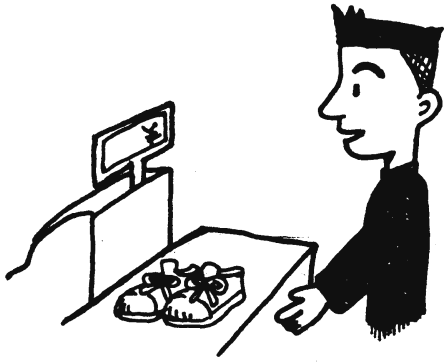


3

（そうじを）
します

13か

⑮



1

かいます

13か

⑯



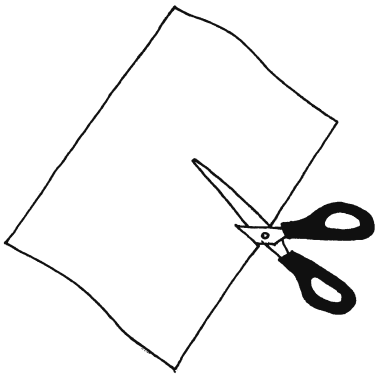
1

およぎます

14か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のグループ名，　～か：『みえこ』での初出課

⑰

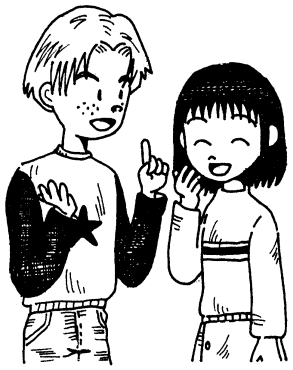


1

きります

15か

⑱

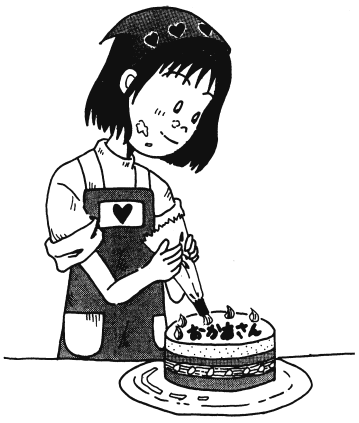


1

はなします

15か

⑲



1

つくります

15か

⑳



1

あらいます

16か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のブループ名，　～か：『みえこ』での初出課

㉑



1

てつだいます

16か

㉒

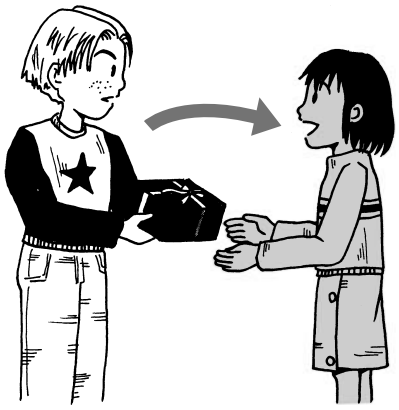


2

（でんわを）
かけます

17か

㉓

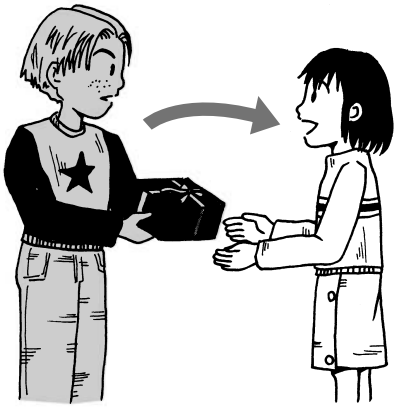


2

あげます

17か

㉔



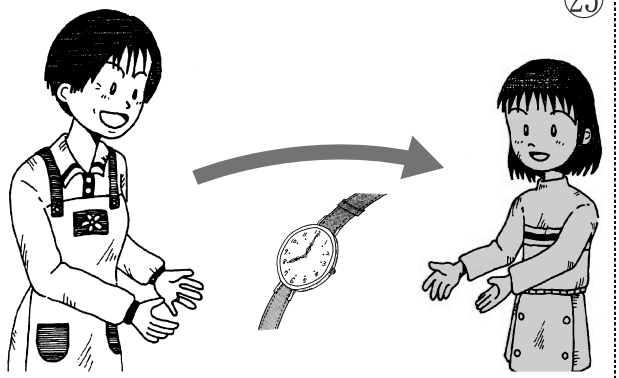
1

もらいます

18か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のグループ名，　～か：『みえこ』での初出課

㉕

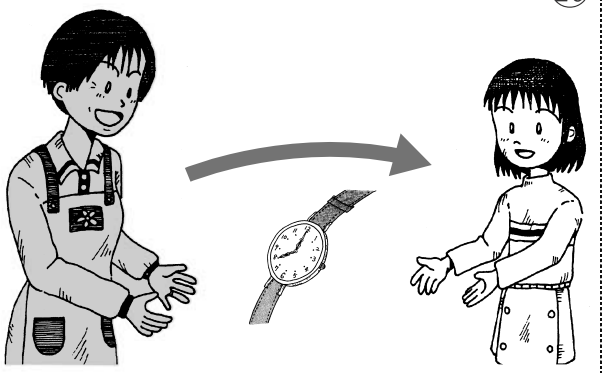


1

かします

18か

㉖

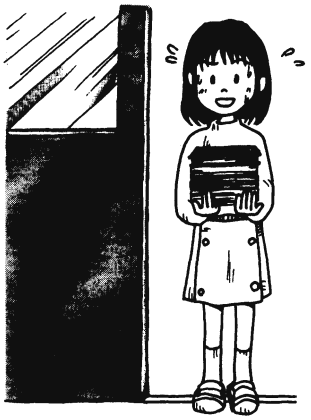


2

かります

18か

㉗



1

はいります

22か

㉘

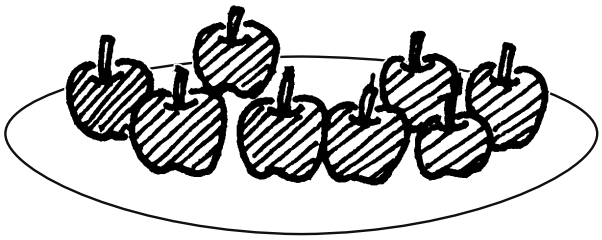
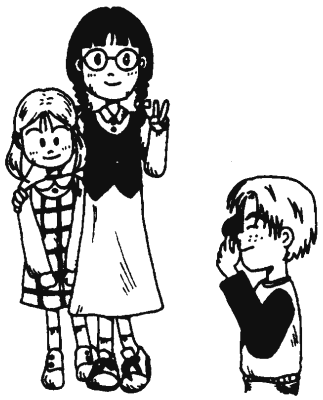


2

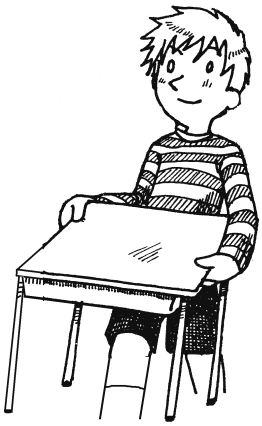
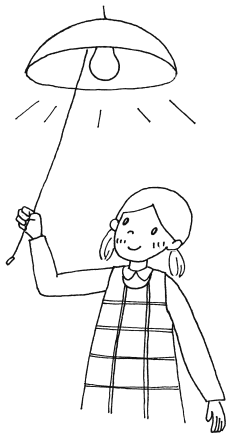
います

25か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のブループ名，　～か：『みえこ』での初出課

㉙ 	1 あります 25か
㉚ 	1 しにます (31か)
㉛ 	1 まちます 32か
㉜ 	1 (しゃしんを) とります か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のブループ名，　～か：『みえこ』での初出課

㉝ 	1 はきます 32か
㉞ 	1 はこびます 32か
㉟ 	2 つけます 33か
㊱ 	1 ふきます 33か

※丸数字：カードの通し番号，　旗印：動詞のブループ名，　～か：『みえこ』での初出課

著　者

鹿嶋　恵（三重大学 国際交流センター 元准教授）

石川　博子（三重大学 国際交流センター 元非常勤講師）

船見　和秀（伊賀市外国人児童生徒日本語指導コーディネーター）

イラスト

三重県立飯野高等学校絵画部 卒業生

石川　貴子

新版　いっしょに まなぼう　みえこさんの にほんご

指導のアクセス

2009年9月30日　初版第１刷発行

2012年4月27日　第２刷発行

2017年5月22日　第３刷発行

2020年4月30日　第４刷発行

編　　集　公益財団法人 三重県国際交流財団（MIEF）

著　　者　鹿嶋　恵　・　石川　博子　・　船見　和秀

著作権者　公益財団法人 三重県国際交流財団

発 行 者　公益財団法人 三重県国際交流財団

〒514-0009　三重県津市羽所町700番地（アスト津3F）

TEL 059－223－5006　FAX 059－223－5007

URL http://www.mief.or.jp

印刷・製本　合資会社黒川印刷

ISBN978－4－9903035－6－3



MIEF